

鎌倉市公共施設再編計画（素案）に対する意見と市の考え方

提出 No. 17 と提出 No. 54 は欠番

第1章 計画の目的と位置付け

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
1	3	11~12	一度だしましたが、大切な問題に不十分でしたので、付け加えます。 市を「どんな市にしていくのか」という一番基本のことが、素案全体何回読んでも見えません。人口の推移は、その基本にたつて、どのように住みよい市にしていくのかによって減少はふせげます。	鎌倉市のまちづくりについては、第3次鎌倉市総合計画基本構想において3つの基本理念を掲げるとともに、総合計画の最上位目標である、鎌倉市の将来都市像「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」及び将来都市像の実現に向けた6つの将来目標を定めています。 基本構想の実現に向けた基本方針に沿って、持続可能な都市経営等を行うため、公共施設再編計画を行政計画に位置付けていることから、公共施設再編計画の中でも、将来都市像、将来目標に沿った計画であることについて、わかりやすい表現となるよう記載内容を工夫します。
2	15	全ページ	公共施設の再編計画を立案するには、現在の鎌倉市がどのような街にしたいのか？が先ず必要になると思います。そこで先日説明会に参加して市長に質問してみました。 結果は、『安全と安心』が最大のテーマでしたので、次の様に考えて見ました。 例えば、この、『安全と安心』を最大のテーマと考えた場合： 	
3	23	13	鎌倉市の財政状況について 鎌倉市の抱える問題点からも、財政が圧迫していることはよくわかります。今回の案は、施設保有数を減らすことで経費削減をはかるといえるものですか、鎌倉市のこれからのために、財源を増やしていく計画と、無駄を省いていく計画の両輪が必要だと思います。それに対して、「これからの鎌倉市は、こんな都市を目指しているんだ」というビジョンをのせていくことが大事だと思います。コスト削減のために、施設を複合化し、保有施設を減らす、が全面にでてしまつては、魅力を感じません。市民も一緒にがんばろう！と思わせてほしいです。	
4	38	一、全体として 二、素案163頁全体と1頁について 背景と目的の源に	3年のちに見直す説明でしたが、いま根本問題が欠落しているの、直ちに根本から見直してください。 1. この計画素案には、「鎌倉市を30年後、40年後、60年後にどのようなまちにするか」基本となる「まちづくり」の記述がありません。再編計画は、それなしに策定できない根本的欠陥の提案に違和感を持ちます。説明会に出て、この質問をしたら、「総合計画」「基本計画」に書いてあると返答がありましたが、これほど市民にとって不親切な回答と、素案の構成であるかを自らが物語っているのではないのでしょうか。市が示さないの、市民は検索をして探さなければならないのです。第3次総合計画 基本構想は、三つの基本理念を次のように掲げています。わたしたちは、わたしたちのま	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
4 (続)	38 (続)	なる、理念が述べられていない。 三、1頁 人口予想 11頁～ 人口動 向・推移	ち鎌倉のもつ資源を生かし、だれもがひとりの人間として尊重され、国際社会の一員としての自覚をもち、ゆとりとうるおいのある生活が送れるよう、これまで市民の手でつくりあげてきた「平和都市宣言」と「鎌倉市民憲章」の精神を基調にしながら、21世紀の新たな時代を切りひらく、市民が主役のまちづくりを進めるため、まちづくりの基本理を次のとおり定めます。 1. 市民自治の確立　　まちの主権者である市民の英知を集め、真の地方自治の確立をめざします。 2. 人間性豊かな地域づくり　　すべての市民が、ともに生き、心のかよいあう、安心して暮らせる、人間性豊かな地域づくりを進めます。 3. 環境共生都市の創造　　人と自然が共生し、災害に強い安全なまちづくりをめざす環境共生都市を創造します。……としています。 1. の市民自治の確立からしても、2の人間性豊かな地域づくり、3の環境共生都市の創造、災害に強い都市からも、素案は程遠いもので、3年後に見直すのではなく、素案を撤回し再出発され、再策定すべきです。 人口予想 動向 推移について、「どんなまちづくりをするか」からの発想がないから、どんな人口予想をするかも、この素案は不完全です。前提なしに、人口推移の記述はまちづくりの観点から遠いものになっています。 鎌倉市も、図表に示されているように、衰退の一途をたどるのでなく、人口減少を持ち直し、17万人を超えましたね。今後は、工場誘致などの古い考え方でなく、「少子高齢社会」の典型的な鎌倉市にあって、たとえば、「健康寿命水準の向上施策、医療費の節減、新しい事業の発掘、高齢者が暮らしやすい市の手厚い施策を講じることでの雇用増加」、「働く父母、若者への手厚い保障による雇用創出」「少人数学級など子どもの発達を保障する。『子育てするなら鎌倉で』と若者が鎌倉に憧れ、鎌倉に暮らしたいまちづくり」「自然エネルギーと資源の再利用など鎌倉ならではのやさしいまちづくり」「自然と歴史、文化が咲くまちづくり」「災害に強い鎌倉」など、市民が活躍できる鎌倉にしていけば、、観光だけでなく、住む人を増やせるのではないのでしょうか。人口問題を切り開くのも、もっと政策的抛り所をもち発想転換をしなければ。	(前ページからの続き)
5	51	全体 2	鎌倉市の特徴を考えた場合、古都鎌倉としての風致保存、観光都市としての環境整備、教育文化都市としての伝統、安心して子供を育てる環境、増加する高齢者への対応策、山谷が多く狭隘な土地環境 etc 様々な背景を考えながら時代に合わせた対応が求められる。 平成27年度に予定されている「社会基盤施設マネジメント計画」との統合で、限られた予算をより効率的に使うと共に、着実なスケジュールで進めていくことが必要となる。これ迄何回かの市民への計画説明も行われているが、市側が誠実に説明責任を果たそうとすればする程、実行スピードが遅くなっている様に感じる。実際に着工時期が遅れた分、確実に建築コストは上昇しており、現時点ではオリンピック・東北復興・東京都耐震化促進条例（基準未達の場合、補強・建替えが必要）等の影響で、当初試算値に対して20%以上のコストupとなっている。6年後のオリンピック終了迄はこの傾向（資材価格up、人手不足）は変わらず更なるコスト上昇の懸念も有。この間何もしない訳には行かないと考えられるので、より厳しく MUST/WANT を精査し、在った方が良い程度のもは計画から削って、絶対無いと我々の生活に支障を来すもの、若しくは将来に向けての我々の主張に係わるものみに峻別すべきと考える。	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
6	53	1~40	コストがかかる財政難であることはわかるが、これからの鎌倉のまちづくりをどうするのか。たとえば、若い世代が流入してくるための施策など財政を増加させる、人口を増加させるための積極的な政策プランがどこにも書かれていない。子どもの医療費の無料化を推進する、市営住宅、子育て世代への優遇などで若い世代が転居し、財政が豊かになった街（長野県）などに学んでほしい。	(前ページからの続き)
7	13		<p>2. 公共施設の定義</p> <p>1) 一律に論じてはいけない。</p> <p>2) 例えば、以下の様なカテゴリーわけをして検討すべき。</p> <p>①絶対にサービスレベルを落としてはいけない教育関係整備等 ②利用状況、費用対効果を考えて、統廃合を検討する設備 ③運営方法を見直して大胆に処分、又はコスト構造を変革して新しい運営形態を導入する設備</p> <p>(例えば)</p> <p>@所有権を市が放棄する：売却、譲渡などによって、市の運営から外すことを検討する設備。</p> <p>@所有権は市だが、民間企業、NPO 等に長期間の施設・設備リースを行う。公的サービスを条件付きで民間の運営に委ねる方式。</p> <p>3) 公共施設の性格を丁寧に分析、再定義し、あるべき公共サービスのモデルをはっきり作り、そこから議論をしないと方向性を誤る。</p>	公共施設再編については、施設と機能を分離して、施設の特徴や利用者の特性を考慮しながら、施設分類別の再編方法を検討しています。サービス提供への行政関与の必要性についても検討を行っていることから、それらの内容の追加も検討します。
8	14		<p>(2) 藤沢市の「素案」との対比</p> <p>③「公共施設」の範囲</p> <p>鎌倉市の「素案」の対象である「公共施設」整備の範囲には、下水道・道路・橋梁などいわゆる社会的インフラ分が含まれていない。来年度のインフラ・マネジメント計画の策定をまって必要な見直しをおこなう(59 頁)としているが、それなくして今「素案」が示されても、市民にはどの程度の財政圧迫を背景にして論じているのか実感がわからない。藤沢市の場合は、「素案」の3年計画のなかには「下水道施設再整備」の事業費も年次別に示されており、全体像がつかみ易くなっている。</p>	策定中の公共施設再編計画では、供給処理施設を含むインフラ施設については再編の対象としていませんが、本来は公共施設の全体的なマネジメントが必要となります。そのため、現在、インフラ施設に係る社会基盤施設マネジメント計画について、平成 27 年度の策定に向け別途検討を進めており、社会基盤施設マネジメント計画の策定にあわせて統合し、公共施設等総合管理計画とする予定です。
9	58		(4) 公共施設としては市庁舎、支所、に始まり、図書室、集会室、NPO 施設がイメージされますが、道路、橋と水路、上下水道、ゴミ処理施設、緑地や公園、はインフラとしてやはり「当面3年(あるいは5年)を洗い出すとどれとどれが検討を進めるべき」から初めて長期方針を検討すべき。それを箱ものといっしょくたにしているのについては、整理をして頂きたい。再編と正確が共通する部分と共通しない部分とがあり、混同はよくない。	
10	13		<p>全体的に非常に良くできた計画書だと思います。短期間で、良くこれだけの報告書をまとめられたものだと感心しています。ご苦労様でした。以下に、コメントいたします。</p> <p>1. 計画期間の考え方</p> <p>1) 5年までを短期、5年から10年を中期、10年以上を長期と定義して考えるべき。2) 短期は予算を意識して組まれるべき。長期はビジョン、戦略的思考の表明であり、中期は予算の裏づけはないが、一定のフィージビリティを持った計画。</p>	より具体性、実効性のある計画とするため、計画期間(短期・中期)を見直します。

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
11	14		<p>(2) 藤沢市の「素案」との対比 藤沢市でも、鎌倉市とほぼ時期を同じくして（8月）、公共施設再編についての「素案」を用意し市民のパブコメをもとめた。私はそのことを知り、その「素案」どうしを比較したところ、以下の諸点が明らかとなった。</p> <p>①計画期間とその整備計画の具体性 鎌倉市は効率的な管理と持続可能な運営のため（p30）と称し、40年を「計画期間」（長過ぎ？）とし、その中の「短期計画」部分ですら12年の期間を設定しているのに比し、藤沢市では「短期プラン」で3年、「長期プラン」で20年を視野にしている。藤沢市の「短期プラン」では、19施設について各年度ごとの事業実施内容・予算見積りについて市側の具体的提案を盛り込んでいるのに対し、その「長期プラン」では、14の各施設分類ごとに整備上の考え方が示されており、解り易く内容も濃いものとなっている。</p>	(前ページからの続き)

第2章 公共施設に係る現状と課題

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
12	12		<p>まず問題提起することが大切、今回の計画はとても大切なことだと思います。ただ一般市民には、提示している金額が大きすぎてピンとこない 市は家庭、会計は家計に例えて、あれもこれもやればいけれど収入は限られていることを具体的にわかりやすく示せばいいと思う</p> <p>今後、困難なことが沢山あると思いますが不都合な事こそオープンにして本当に困っていることを積極的に開示していく方がいいと思う ご苦労が多いことと思いますがどうぞよろしくお願いします。</p>	わかりやすい表現の工夫や、施設データの追加等を検討します。
13	14		<p>⑤各施設ごとの基礎データの調査・開示 市民ワークショップによるボードゲーム型演習、マンガによる再編の必要性についてのパンフレットも市民啓蒙には有益とおももの、それだけで市民から具体的かつ建設的な意見を引き出すのに有効とおもえない。各施設の耐震・防災上の基礎データおよびその評価、さらに施設利用率の現状、一般公開許容の程度など施設利用面のデータの提供も必須とおもう。</p>	
14	51	7	<p>津波浸水については長い歴史の中で今後も懸念がないとは言えず、何らかの対応策の検討は必要だと思われるが、完璧な防潮対策と言うよりは観光客等も含めた、いざという時の安全経路の確保に力を入れるべきかと考える。土砂災害については谷戸が多く狭隘で降水量によっては危険も高いと感じるが、従来山とその下の住宅の所有者が異なる等の問題もあり、安全対策・リスク管理も完全ではなかったと聞く。現在は市の指導にもよってかなり改善補強されてきたと思うが、より難しい場所（行政所管が異なる場所、危険を承知で建てられた違法建築等）に対しても人命を優先した介入・指導について検討が望まれる。</p>	津波や土砂災害、交通問題等といった、鎌倉市の地域特性による課題に対しては、公共施設の再編にあたっては、十分に検討する必要があることから、課題を踏まえた検討となるよう努めていきます。

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
14 (続)	51 (続)	8 11	<p>交通状況については、観光都市でもある側面から、鎌倉駅・大船駅等で乗降する観光客が市内各所の名所・旧跡にうまく分散し、楽しんでもらって、また交通至便で気持ち良く帰ることを検討できないか、と考える。昔からの歴史的建造物に拘っているせいか、混み合う場所が局所的で流れになっておらず、復た出発点（駅等）戻ってくると更に混み合う。</p> <p>今後 25 年間で市の全体人口が 174→149 千人と▲14%が見込まれ、更に内訳で見ると生産人口は 12→9%と減少するのに、65 歳以上の高齢者は 28→40%と確実に増加している。この様に働き手が減って、高齢者が増えて活性化し難い街の構図が予測されるのであれば、公共施設の建設計画にもこの状況を反映させることが必要と考えられる。</p>	(前ページからの続き)
15	26	6	<p>拠点のひとつに深沢があるが、これは JR の駅設置を目的にしているのではないか、駅設置は当然益をこうむる市民もあるが市全体から見てそこに多額の費用をかけるメリットはあるのか。更には現在でも過密運転の東海道線に 1 つ駅が加わることの負担と危険の増加を考えねばならぬ。駅の新設は大きなムダと考える。</p>	<p>深沢地域整備事業用地については、公共施設再編計画との整合を図りながら、並行して事業計画の検討を行っています。鎌倉市における数少ない広大な用地であることから、有効活用を図っていきたいと考えています。</p> <p>また、新駅設置については、本市に与えるメリット・デメリットを慎重に検討し、総合的に判断することとなります。</p>
16	51	6	<p>深沢地域（整備事業用地）開発プロジェクトは将来の鎌倉発展に向けて夢のある計画として是非検討を進めたいが、この地域は必ずしも足の便が良くないので近隣地区町村の協力を得た開発活動（JR 新駅等）も視野に入れるとすると、長期的でかなりしっかりした体制の構築・取組みが必要と思われる。</p>	
17	26	13	<p>歳入の推移。この表は平成 13 年からで、累進課税率が大きかった時代との対比が出来ない。鎌倉市の財政は高額所得者が多いため、その税率の変化がダイレクトに財政に反映する。税金は社会的格差を修正するものであるから累進課税による再配分がなされるべきである。税率は国の決定によるものであるが、ゼセイさせるべく意見を出すべきである。</p>	<p>国の税制にも及ぶ大きな視点からのご意見として承ります。</p>
18	3	15	<p>市へ寄贈された土地・建物が書かれていません。</p>	<p>公共施設再編計画では、実際に利用されている公共施設を主な対象としており、鎌倉市が保有する資産のうち、未利用となっている建築物や土地の一部は含んでいません。しかし、未利用となっている資産についても、活用を検討するにあたっては、再編計画の趣旨を踏まえて行うこととなります。</p>
19	38	四、15 頁 五、2 頁	<p>説明会でも質問しましたが、今まで実際に関係部課に行って質問したが、鎌倉市に寄贈された邸宅・土地・建物の一覧表がないと言われました。文書公開していただきたい。そこから利用すべき内容の展開が出来、公共施設再編を総合的に策定できるのではないのでしょうか。狭い枠で考えるのではなく、すべての条件を洗い出し、基本から出発しなければならないと考えます。</p> <p>計画の位置づけ</p> <p>27 年度に、、、インフラ等の計画を立てるとあるが、私は 1995 年 1 月 17 日の阪神淡路大震災のとき、公立中学校に在職し、1 校で、1000～2000 人の被災者を受け入れ、自分も被災者として事に当たっていたものとして、ここにあるように、別に考えることは、公共施設再編にならないと考えます。</p> <p>真に市民の安全、危機管理に責任を持つ行政ならば、当然のことであり、災害日本、震度 7 以上の激震を予想し鎌倉における行政の任務について、責任を疑われてしまいます。</p>	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
19 (続)	38 (続)	六、全体としての財政問題	説明会の質問、「学校建築などに関わる補助金は、この計算に入っているのか」に対して、入っていないの回答でした。これは一つの例に過ぎず、更にさまざまな分野についての同質の内容の欠如は、実に根本問題で、これで素案提示というのは早すぎます。	(前ページからの続き)
20	14		②耐震チェックを基にした施設整備の優先度評価 藤沢市の「素案」では、118か所の全施設について施設ごとの耐震性の評価結果が添付されており、藤沢市はそれを主体に整備に優先順位を決め、急を要す3か年計画を具体的に展開したものとおもわれる。単に耐用年数からのマクロ的推論に過度に頼ることなく、鎌倉市は耐震評価・補強の全体像なるべく早く市民に公表の上、共に現実的な政策を考えるという姿勢を貫いてほしい。	平成24年3月作成の公共施設白書において耐震化の情報を整理し、その後、耐震診断等を行ったものについては、ホームページで公表していますが、公共施設再編計画においても、個別施設の耐震化状況の追加を検討します。
21	13		6. 経済的シミュレーションについて(予測値) 1) 数字を扱うものは、“統計の嘘”を常に念頭に置いておくこと。 2) シミュレーションは、前提条件の設定によって結果は大きく変わる。 3) アンケートも同じ性格を持つ。聞き方によって、いかようにも誘導できる。注意が必要。過信してはいけない。「皆さんがこう言っている」という方便で逃げてはならない。	将来の公共施設の更新費用は、他自治体においても多く活用されている財団法人自治総合センターの試算ソフトを用いて試算しています。計算に用いる単価等は概算のものであることから、数値の取扱いについては注意をしていきます。
22	23	33	①33ページ:将来の更新コスト試算について 将来負担予測コストが直近6年間の投資的経費の2.8倍になる、とありますが、このグラフはとても極端な比較ではないでしょうか。直近の6年間と比べられないほど、今後には修繕・大規模修繕や積み残し、さらに建て替えが山積みされています。予算がないため、後回しにしてきたのでしょうか。このグラフを見ると、鎌倉市はまちづくりに対して無計画だったのか?見通しが甘かったのか?と思わずにいられません。このグラフで2.8倍と言われても、この経費計算が正しいのかよくわかりません。	

第3章 公共施設の再編方針

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
23	46		公共施設をきちんと充実させて下さい。	公共施設マネジメントの方針として、施設の複合化・集約化等による施設の床面積総量の圧縮だけではなく、運営方法の見直しや類似業務の集約化、事務事業の見直し等による運営コストの削減等を含めて、多角的かつ横断的に改善検討を行い、サービス推進の維持・向上を図りながら課題解決に取り組むこととしています。
24	47	全ページ	子どもや老人など社会的に弱い立場の人たちに優しい市であって欲しいと願っています。市民のやさやかな生活の豊かさにつながる公共施設をちゃんと考えて欲しいです。地域にしっかりと根づいていることが本当の公共ということだと思います。鎌倉の街の将来が見えてこないのが怖いのです。	
25	50		市民にとって、市役所・支所・学習センター、学校・子ども会館・保育園等は、情報を得、意見を述べ、交流し、学びあい、支えあう大切な施設です。また、下水処理場、ゴミ焼却場等々は、生活に欠かせないインフラです。市収入から面積を決め、収入の減少が予想されるからと言って、一人当たりの公共施設の床面積を減らすという考えは納得できません。運営や経営に工夫をして、せめて藤沢市や横浜市並みの公共施設を整えていただきたい。裕福な人たちはホテル等の会議場を確保できても、一般の住民にはそのような贅沢はできません。公共施設を減らすということは、結局は、民主主義の破壊につながり、貧富格差を広げ結果になりかねません。多少の税の上昇があっても、住民が集い、学べる場を確保して欲しい。	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
26	51	16～20 23 24	<p>市内にある約 230 の公共施設については小学校・中学校等優先的に安全補強されている施設もあり、再度データの整理が必要。これらのうち、補強又は建替えしないと危険なものでニーズの高い (MUST) もの、他施設との統合・施設利用度の減少等でニーズが低く (WANT) できる可能性のあるものを精査要。</p> <p>過去に少子化による学校の統廃合と高齢者対策施設への転用若しくは複合が検討された経緯はあるが、建築プランに盛り込んでも実行しないのであれば過剰投資ではなかったのか？</p> <p>子供の安全は重要だが、屋内施設を増やすよりは鎌倉の自然を活かした屋外施設領域を確保して欲しい。自然に触れ合うことで高齢者～子供達迄気持ちも癒され、尚且つ気持ちにゆとりを持つことができればメンタルヘルスケアにおける第一次予防 (未然防止及び健康増進) としてストレスの減少にも繋がると思われる。</p>	(前ページからの続き)
27	51	39	<p>公共施設の更新費用の将来推計で既存実績を基に算出した 17.4 億円/年に対して将来の既存設備を基に更新するというで見直しをしないで算出した 49.5 億円/年 (約 2.8 倍) というのは机上計算として理解できるが、削減目標をいきなり▲24.7 億円 (約 50.0%) というのは何を根拠としているのか？それ迄の計算根拠を無視しており理解できない。</p>	
28	23	37、38	<p>取組方針について 公共施設の見直しは、やはり必要なことであると思います。コスト削減のためだけでなく、前向きに、新たなまちづくりの計画として考えていくべきだと思います。そのためには、上からの計画ではなく、是非とも市民との意見交換・情報収集を根気よく続ける必要があると思います。その再編が必要である、よりよいものになる、こうしてほしい、とわかれば、お互い納得できる施設像が浮かんでくると思います。</p> <p>学校関係者、公共施設関係者及び利用者、住宅住民、高齢者、子育て世代など、それぞれの思いがあります。これらの方々から声を聞く機会を定期的にとってほしいです。市民グループなどとの定期会議や、計画の進み具合の明示を希望します。</p>	取組方針については、再編の方向性を示すためのもので、個別施設の具体的な事業化にあたっては、利用者や関係者等との十分な意見交換等を行いながら進めていきます。
29	33	全体 20	<p>今回、意見募集が行われた公共施設再編計画 (素案) に関し、コスト削減と公共サービス水準の維持・向上を目指す公共施設マネジメントとそのロードマップの内容について賛同いたします。公共施設の老朽化に加え、少子高齢化に伴う人口減少が予想される中、限られた財源の中で次世代に過大な負担を残さない公共サービスのあり方を精緻にご検討されたものと理解いたします。再編後の施設における公共サービスの維持・向上のためには、建築設備に関する維持・更新等も検討していくことが必要と思われることから、以下の 4 点について意見を申し上げます。</p> <p>【1. 劣化状況の把握について】 p. 20②劣化状況において、その調査対象が主に建物の躯体が対象になっているように見受けられます。安全のために建物の劣化状況を把握するという大前提について賛同いたしますが、さらに公共 (市民) サービスの「事業継続」の観点で見ると空調や衛生といった設備に関しても劣化診断が必要と思われます。既存施設の中には「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」にある耐用年数をはるかに超えた設備を所有する物件が多いと思われます。建築物より耐用年数の短い空調・厨房・電気・上下水といった設備に関して別途更新計画を立案するようご提案いたします。</p>	防災面の課題やエネルギー等に関する環境面の課題等にも配慮しながら、検討を進めるよう努めていきます。

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
29 (続)	33 (続)	37・38	【2. 財政負担の平準化について】P. 37■公共施設マネジメントの3原則②財政と連動した適切な施設保全について、「財政負担の平準化を図りながら公共施設マネジメントを実施していく」とありますが、熱源設備を中心に所有と管理をアウトソーシングするエネルギーサービスという新たなスキームの検討を行うことをご提案いたします。熱源設備等の更新に伴う初期投資と維持管理費用とを平準化するエネルギーサービスにより、財政負担を平準化することで複数の施設を同時に更新可能になり、P. 38にある「■施設の整備・運営の効率化・財源確保」へと繋がると考えられます。また、「4. 市民・民間事業者との協働」とありますように民間事業者のノウハウを最大限活用することで、より一層の効率化が図られると思われま。施設の再構築を図りながらも、限られた予算で老朽化する大量のストックを更新していくためには、既定の概念にとらわれない新たなスキームの検討が必要であると思われることから、長期継続契約に関する市条例の改訂もしくは、弾力的な運用も併せて提案するものです。	(前ページからの続き)
		47	【3. 市役所本庁の整備について】P. 47(1)本庁舎・支所にある「再編内容」において、老朽化が進む市役所本庁舎の整備方針を検討されていますが、市庁舎は、常時は市民生活の重要な基盤であり、また、災害時には市長が陣頭指揮を執る対策本部として重要な役割があると思われま。昨今の自然災害を踏まえ、再整備の際には、防災性の強化をキーワードに自立分散型電源の確保といったテーマを盛り込むことをご提案いたします。国の「エネルギー基本計画」や神奈川県が策定している「かながわスマートエネルギー計画」においてもコージェネレーションの推進や安定した分散型電源の導入拡大が掲げられております。出力変動の激しい再生可能エネルギーをバックアップし、環境性・経済性の向上に寄与し、さらに非常時のセーフティネットにもなる天然ガスコージェネレーションは、将来の本庁舎整備において不可欠なものと考えま。省エネ・省CO2・節電・停電対策に寄与するガスコージェネレーションを導入することで、市政にも地球にも優しい市庁舎を実現することができると思いま。	
		64・65	【4. 公共施設の再編計画について】P. 64、65において「公共施設再編計画のロードマップ」が示されていますが、PDCA サイクルを回しながら、そのときどきの状況に合わせて計画の見直し・改訂を行うことに賛同いたします。ロードマップに記載のある各事業を実施する際には、ライフサイクルコストを中心とした経済性に加え、省エネ・省CO2・節電といった環境性・社会性にも考慮した施設整備を行うよう提案いたします。	

第4章 公共施設の再編方法

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
30	4		公共施設の再編については、素案の在り方に大筋で賛成しま。全市レベルの施設は1カ所として充実させたいえ、利用の申し込みは市内在住者を優先させる対応が欠かせませ。5つの行政地域レベルの施設は、現在ばらばらの施設を1カ所に集約して、将来のコスト削減につなげ、現在のばらばらの施設は廃棄すべきです。なお、その利用に対しては、コストに見合った利用料を原則として利用者が負担すべきです。無料であることが、かえって利用者を固定化して、広い利用を妨げる結果になる恐れがあります。また、利用料を補助する制度も見直して縮小したらと思いま。	公共施設再編にあたっては、サービス水準の維持を図りながら、サービスの提供範囲、提供方法も含め、見直しを行う方針としています。個別施設の具体的な計画にあたっては、いただいたご意見も参考に検

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
30 (続)	4 (続)		さらに学校区のレベルの施設は、各学校の設備を許可制で一般に利用差swるような工夫があったらよいと考えます。 公共サービスだからといって、コストを度外視したサービスは結局財政の破綻、増税への道を歩む結果となります。利用の頻度の少ない施設や劣化の激しいものは淘汰して、本当に多くの市民のために必要な施設だけを残すことに尽きます。	討を行います。
31	5		老朽化した公共施設について、その必要性、使用頻度等のアンケートを取ったらと思う。駅や行政機関(支部等)に仮称「御意見箱」を設置し、期間を定め意見聴取するのも一法。もちろん、FAXやネットでの手段も使って。要は、市の懐具合に合うよう基準で「打ち切る」かだと思ふ。意見、関心が多くなるようPRし、コストパフォーマンスで判断すれば良いと思う。一部の人しか使用しないモノに、市民全体の「税」を投入すべきでない。「一部」を具体的にどう表すかは、工夫がいりますが。	いただいた意見募集の方法などのご提案については、個別施設の具体的な検討にあたって参考にさせていただきます。
32	9		財源措置について。 市の職員の給与は、市民サービスの質を保つうえで、減らすことはいけない。しかし、市議員のばあいは、職をもっても差し支えないのだから、半減し、公共施設再編の財源にあてる。 公共施設再建の具体的提案 1. 生涯学習センター、スポーツ施設、文化施設の利用料を、2~3倍に引き上げる。これによって、利用する団体、個人が減る心配はない。 2. 図書館の貸し出しは、現行の無料から有料とし、定価の3~5%を借りる人から徴収する。児童生徒のために、学校図書館を、文科省の図書予算をつかって、充実すれば、無理はおきない。なお、学校図書館を市の中央図書館でトータル管理をする。また、学校図書館は学校の休みの日も9時から17時までひらく。 3. 市営住宅は、高齢者向け介護型・自立型の複合サービス付住宅に変え、厚生年金で支払い可能の金額で、食事風呂もできる。訪問デイサービス機能も付ける。やすらぎセンター機能もつける。すべて有料とする。送り迎えサービスは無料。 4. 小学校・中学校23校を16にまとめる。保育園・幼稚園・小学校・中学校をまとめた施設を16つくる。保育園・幼稚園の運営は、民間に委託してもよい。体育館・プール・職員室はそれぞれ、共同でつかい、情報が職員すべてで、共有できるようにする。施設長はひとり、副施設長は三人とし、この施設ぜんたいが4人で管理できるようにする。学童保育もここにふくめ、共働き子弟の安心・安全を確保する。 6. 現行施設でいらなくなった市の資産は売却する。	公共施設再編にあたっては、サービス水準の維持を図りながら、サービスの提供範囲、提供方法も含め、見直しを行う方針としています。 いただき利用料金の考え方などのご提案については、個別施設の具体的な検討にあたって参考にさせていただきます。
33	13		3. 公共サービスの定義から見直しが必要 1) そもそも、自治体が市民に提供する公共サービスの定義を見直した方がよい。 2) 一般の市民は、国、県、市町村のそれぞれがどのような分野の公共サービスに責任を持っているか、正確には理解していない。 3) よって、鎌倉市は、「地方自治体としての鎌倉市が担っている公共サービスとは」の定義をしっかりと行い、市民に示すべき	市が提供している公共サービスなどについて、わかりやすい表現となるよう記載内容を工夫します。

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
33 (続)	13 (続)		<p>4) 現在の地方自治の枠組みで、市という行政単位ができる事には様々な制約があるが、その諸制約を突破していく“覚悟と知恵”が必要。</p> <p>5) 一般市民に聞いても、要望やヒントは出てくるが、答えは決して出てこない。答えを出して、市民に示し、コンセンサスを形成し、新しいコンセプトを導入していくのは行政の責任です。</p> <p>4. 公共施設の効率と効果について</p> <p>1) 運営効率を上げる：利用・回転率が向上し、単位時間当たりの活用度数が上がる。</p> <p>2) 運営効果を上げる：利用者の満足度が向上し、施設からの収入も上がる。</p> <p>3) 要は、設備の IN と OUT を考えるべきで、両方の視点からの設備の性格を把握しなければならない。</p> <p>5. 総論と各論の繋がりが必要</p> <p>1) この計画は総論、及び各論の入り口の様な情報が混在している。</p> <p>2) このままでは、総論賛成・各論反対のパターンに陥る危険性がある。</p> <p>3) 各論に入った時に、きちんと個々の判断を説明できる、「公平・公正・公明」な基軸となるロジックが必要。</p> <p>4) そのロジックとは、方針と判断基準である。</p> <p>5) この2つを計画の中にしっかり盛り込んでおかねばならない。</p>	(前ページからの続き)
34	14		<p>(1) 「素案」中身</p> <p>今回のパブコメの対象となっている「鎌倉市公共施設再編計画(素案)」は、参考資料編を含めて 160 頁を超える長文の形で、市のホームページに収録されており、その作成に要した職員の労力については、多とするものである。しかし、その内容をみると、従来、部分的に発表してきた現状説明の資料の再編及びその理念的整理が多く、個々の施設の課題・再編の内容・方向性についての具体的提案は少くない。46 頁以降の「施設分類別の再編内容」と銘うたれた箇所においても、検討中とかかれた箇所が多く、市民に身近に訴える内容をもつのは消防本部の移転、総合体育館新設、子育て支援センター(玉縄)新設、芸術館の大規模修繕、市営住宅集約化くらいしか見当たらない。</p> <p>特に奇異におもうのは、本庁舎の取扱い(現在地での建て替え/長寿命化?、深沢地区での移転?)ですら平成 28 年度までに決めるという悠長さである。(P47) 本庁舎は街づくりの核でもあり、その方向性をまず決めないと、その他の公共施設計画を議論しても無駄になりかねない。</p> <p>また、「福祉関連施設」の向こう 12 年間(鎌倉市の期間の区分では「短期」)の整備内容の記述(p52)は、「検討する」とあるだけで中身が空虚のままである。</p> <p>本年 6 月に示された介護保険法改正の動きに併せて示された国の在宅看護重視への姿勢の転換は、その受け皿となる本市にとっては、待ったなしの緊急課題が突き付けられた感がある。個々のサービスについては民間業者に任せる面が多いとしても、退院支援から始まる多岐にわたる支援サービスについては、実働部隊間のタイムリーな緻密な連携が必須な他、介護事情が個々に異なる家族との対話をとって、看護・介護体制を個々に設計する高度な資質をもつケアマネージャーも多数必要であろう。その育成のためにも日々のケアの実践をつうじて積み上げられたノウハウを共有し、関係者の絶えざる研鑽を容易にする場を、鎌倉市は、公共施設(真の意味での地域包括ケアセンター?)として提供すべきで、この面での公的関与は不可欠とおもう。先日の NHK の報道によれば、この包括センター機能を市当局の福祉部門とともに一つ屋根の「公共施設」のもとにまとめあげた自治体の例が報告されていた。</p>	<p>個別施設の具体的な計画にあたっては、いただいたご意見も参考に検討を行います。</p> <p>より具体性、実効性のある計画とするため、計画期間(短期・中期)を見直します。</p>

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
34 (続)	14 (続)		高齢化率の高い鎌倉市でも緊急の課題として是非検討願いたい。ただ、残念ながら今回の素案の中には、その検討がされた兆しはみられない。このような状況のもとでは、市民は、ただ抽象的・理念的なスローガンに共鳴する以外、コメントの書きようがない。市民が正式の意見表明を行なう唯一の機会としてパブコメがあるのであれば、もう少し身近な具体的内容が含まれていないと市民から建設的な意見をひきだせないだろう。その意味では、不適切なタイミングでの「素案」提示と云わざるをえない。	(前ページからの続き)
35	24		<p>鎌倉市公共施設再編計画（素案）について</p> <p>1. 再編計画の考え方</p> <p>(1) 社会インフラ（道路、橋りょう）と公共施設（建屋）をセットで検討することが重要である。</p> <p>(2) 防災面から津波浸水地区の施設は廃止し統廃合する。</p> <p>(3) 庁内関係部の意見をきく事は必要であるが、市長のリーダーシップが重要である。</p> <p>(4) 借地の施設は廃止し、統廃合する。</p> <p>(5) 建物高さの制限がある施設は移転する。</p> <p>(6) 子育て支援（保育所）高齢者支援（介護施設）は充実する。</p> <p>(7) 深沢地域整備事業用地、JR 所有地（工業専用地域、工業地域）を JR から安価でゆずりうける。</p> <p>(8) 理由、深沢地域整備事業（区画整理市施行に約 40 億円税金投入、（仮名）村岡新駅設置等に本市負担約 45 億円税金投入、合計約 85 億円税金投入になる。</p> <p>2. 再編実施事項及び地域</p> <p>(1) 深沢地域整備事業用地、市所有地（現）JR 所有地を公共施設集積地域にする。</p> <p>(2) 鎌倉体育館、大船体育館は廃止し、上記に新たに統合し建て替える。跡地は売却する。</p> <p>(3) 中央図書館は廃止し、上記に建て替える。跡地は売却する。大船図書館、深沢図書館は廃止する。</p> <p>(4) 本庁舎は、上記に建て替える。跡地は売却する。</p> <p>(5) 鎌倉生涯学習センターに支所、図書館を複合化する。</p> <p>(6) 消防署を 1 つに集約し、上記に建て替える。消防出張所は廃止する。跡地は売却する。</p> <p>(7) 大船支所学習センターは廃止し、跡地に鎌倉芸術館にある、ホール以外のもと統合し、大船支所学習センターに建て替える。</p> <p>(8) 鎌倉芸術館ホールは、上記体育館と複合する。</p> <p>(9) 鎌倉芸術館跡地は、地権者（松竹）にかえず。</p> <p>(10) 上記の深沢用地に新ごみ焼却施設を建設し、そのエネルギーを他の施設に活用する。</p> <p>(11) 他の施設は詳細に検討する必要があるが、出来るかぎり、上記の深沢用地に集約する。</p> <p>(12) 子供関連施設は学校施設と複合する。</p> <p>(13) 深沢クリーンセンターは高圧線の関係で売却がむずかしいことから、深沢クリーンセンターに統合し、跡地は売却する。</p> <p>(14) 少子高齢化が進むことから、介護施設を上記に作り、民間に運営させる。</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 鎌倉市公共施設再編計画（素案）を支所で見したが、具体的でないことから理解出来なかった。</p>	<p>いただいたご意見は、今後行う具体的な検討や計画の見直しの際の参考にさせていただきます。</p> <p>深沢地域整備事業用地は、地区内の権利者や JR との合意形成を踏まえた深沢地域整備事業の実現が前提となっています。</p> <p>本市にとって、貴重な用地であることから、当該事業用地については、公共施設再編計画との整合を図りながら、導入する公共施設に係る事業計画の検討を行い、有効活用を図っていきたいと考えています。</p>

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
36	42		<p>(1) 厳しい財政状況の中で、公共施設に係る更新等のコスト増を賄いきれなくなることが予想され、そのため施設の集約化、複合化、多機能化が必要となっている事は、重要な課題であると認識しております。よく言われるように、現在行政サービスに対しては、同一水準のサービスを安く実現する事あるいは同一価格でより上質のサービスを実現する事が要求されています。「再編計画」は、当然基本的に前者の観点から、施設の再編を行おうとしています。今後市民の合意形成を図っていく場合、単なる集約化・複合化ということでは常に不満が生じるように思われます。例えば「類似機能は、集約化により総量を削減しながら、運用の工夫などにより利用効率を高め、サービス内容は維持」（「再編計画」42頁）するとされていますが、集約化はすなわち集会所の減少、施設が遠くなることと受け止められてしまいがちです。ここは後者の観点、集約化されることで、新たな付加価値が生まれるのだから、市民に対するサービスは実質的に向上するという事をよく説明していく事が必要です。新たな付加価値とは例えば「防災拠点としても有効な施設に生まれ変わる」「多世代が交流する事で、世代横断的な市民活動の場として施設を活用できる」といったことが想定されます。「施設分類別の再編内容」（「再編計画」46頁以下）にも一部記載がみられますが、新たなサービス提供をするための再編である事をもっと強く打ち出していくべきと考えます。</p> <p>(2) 鎌倉市は今後も、観光都市と住宅・生活都市の二面性を両立させていかねばなりません。観光立国の基本理念は観光庁によれば、「住んでよし、訪れてよし」ですが、私は鎌倉においてこの基本理念を実現していく必要性を強く感じています。今回の「再編計画」は「住んでよし」の鎌倉づくりの一環と位置づけられますが、何らかの方法で「訪れてよし」の鎌倉づくりとの接点を意図的に創りあげていくことはできないでしょうか。例えば集約化されたある施設が、平時には観光拠点として、有事には防災拠点として機能するといったイメージです。さらに今回の「再編計画」の具体化に当たっては、「稼いでいける」という観点から施設を捉え返してみることが必要であると思います。受益者負担のあり方を見直すとともに、PPP手法の活用による公用資産の有効活用等を幅広く検討されることを期待しています。</p> <p>近年、企業においても経済的価値だけでなく、社会的価値を生み出そうという動きが多くみられます。鎌倉市はもちろん、社会的な価値を創出していく事をミッションとされておられることと思います。今回の「再編計画」が公共施設の社会的価値を高めることを企図した「公共施設価値向上計画」として推進される事を希望いたします。</p>	<p>財政問題への対応が大きな課題となっていますが、公共施設再編のメリットについても記載内容を工夫します。</p> <p>いただいたご意見は、今後行う具体的な検討や計画の見直しの際の参考にさせていただきます。</p>
37	37	49、50、51	<p>公共サービスのあり方の見直しについては方向性は正しいと思います。縦割り行政の見本のような、利用者を限定したサービスはなるべく早く廃止すべきです。民地、民有施設（空き家等を含む）も積極的に利用できるような「仕組み」づくりを市役所が担うべきで、直接のサービスは民間やコミュニティに委託または開放すべきだと思います。</p> <p>子育て関連施設、子ども青少年施設についても、積極的に民営化すべきだと思います。私立保育園の誘致にも積極的に取り組むべきです。ただし、出来るだけ子どもの安全と利便性を考えて、小学校を中心に各種施設を統合・整理することが理想的と考えます。これまでもこれからも小学校が地域コミュニティの核であることに重視すべきです。</p>	<p>いただいたご意見は、今後行う具体的な検討や計画の見直しの際の参考にさせていただきます。</p> <p>計画の着実な推進に努めていきます。</p>

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
37 (続)	37 (続)		<p>特に、子どもの家(学童保育)については全てを小学校に併設とすべきで、早急に再編を行うべきです。この場合、新施設建設や学校建替を待たずに、小学校地および施設を有効に利用して、少ないコストと時間で実行することが望ましいと思います。「教育委員会」も積極的に協力すべきです。そもそも同じ小学生に対する行政サービスは一カ所で管理運営できるのが、本来の姿だと思います。</p> <p>特に現在御成学区の「おなり子どもの家」は市役所のプレハブに間借りした状態で、定員を超える子どもが在籍しています。また、小学校自体も教室が不足しており、両方とも望ましい環境とはいえなくなっています。</p> <p>子どもが学童保育や小学校に在籍する期間は短く、御成小学校旧講堂の改修再利用含め、早急な対応を望みます。</p>	(前ページからの続き)
38	12		<p>地域のコミュニティを維持展開するには小学校区程度で考えるのが適していると思う小学校を核に様々な用途を複合させれば良いと思う開かれた学校は安全・安心にも繋がる</p> <p>関係法令、既存の縛りを乗り越えて行政と市民が共に知恵を出し合えって進められれば良いと思う</p> <p>極端な意見には、それを維持するためには市税がこれぐらい上がるがどうか?と言う説明も必要だと思う</p>	<p>地域拠点校の具体的な検討にあたっては、児童・生徒の安全や防犯に留意し、地域にあったコミュニティの拠点となるよう、十分に関係者との意見交換を行いながら進めていきたいと考えています。</p>
39	20	3	<p>公共施設の再編方法では行政地域レベルと全市レベルと併用が望まれます。生涯学習に多世代が参加するためには、PRも含めて各地域の小中学校1校を選定し、素案の様な複合化を計画をもっと短期にして、全市レベルの図書館・文化ホールは駅の近くにあることが望ましい。</p>	
40	29		<p>私達も鎌倉市民になって45年近くになりますが、その頃から見ると公共施設が色々な所に建設され、私達はとても便利に利用させて頂いていますが、老朽化が進む中どうするか?を考えていく時期ではあると思っています。特に行政区・地域レベルの施設の中でも特に老人福祉センターや図書館など、高齢者利用施設に付いては、不便にならないように、そうでなくとも平成26年度から高期高齢者への交通費補助もなくなり、ますます高齢者が外に出なくなり、認知症老人が増加して行くと思うので、複合化・統廃合を考えているのであれば、交通の利便性の面からでも駐車場や送迎バス(無料)があれば少し遠い所でも良いのでは?と思います。</p>	
41	36	6	<p>5つの行政地域は、昭和14年に鎌倉と腰越が統合し、以後深沢、玉縄、大船が合併していく中で市域が定まったことを反映しています。現在も各地域では、自治会、町内会、PTA、商店組合等、地元振興のための市民活動がさかんに行われており、日々の暮らしを通じて各々の町の歴史や文化が継承され、市民はそれぞれの町に愛着と誇りをもって暮らしています。この5つの行政区域の拠点となっている各行政センターは地域の拠点になるべき施設です。中央に市の拠点を集中するのではなく、各地域にそれぞれの拠点となるべき機能をもたせ、市民自治の醸成を促す仕組み作りこそ、市がこれからめざすべき方向ではないでしょうか?</p> <p>職員も5つの行政地域に分散していただき、市民生活により密着することで、それぞれの自治活動のサポートに尽くしてほしいと思います。地域の相互連携をふまえて、町のすみずみまで精通した行政職員が各地域にいて、現在よりもよりきめ細かい市民サービスができるのではないのでしょうか?</p> <p>地方公共団体が、国に対して財源を伴った地方分権を要望しているように、人と予算を伴う地域分権をすすめるという発想で拠点地域の再構築をしてくださることを望みます。</p>	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
42	43		<p>・基本的な拠点を小学校とし、そこにいろいろな施設を集約していく、という考え方が主節と受け取りました。災害時、私の暮らす谷戸は孤立する確率が高い、と以前、回覧板がきました。谷戸の多い鎌倉は、そのような地域が多いことでしょう。地形に合わせ、避難できる拠点を、地域自治会とも協力して作っていく、という発想が必要です。また、何でも拠点に集約、という発想自体が、平成の大合併と同じ思想で、机上では合理的、経済的、効率的に見えても、3.11のとき、合併したがために、支援が中々行き渡らなかったのは記憶に新しい。お役人の机上の計算の効率です。</p> <p>・アンケートでよく使う、使わない、がありました。使わなくても重要な施設もあります。それから、何でも民間委託→これは人件費をへらす。つまり、より安い方へ、格差拡大に手を貸し、まわりまわって税収がへります。もっと地域の力を借りて、真にお金のかからない、しかし行き届いた計画を希望します。</p>	(前ページからの続き)
43	52		<p>行政地域レベルの多世代交流機能の複合化について。学校を中心とした集約化、複合化ですが、</p> <p>①地域図書館と学校図書館は目的も法律も違うので、複合化には反対です。</p> <p>②保護者、学校の先生の意見をとり入れるための説明会やアンケート等を全員に配布するなど、時間と労力を惜しまない取組がされておらず、外部の識者に多くの税金を払い、「市民共同のまちづくり」の観点からすると矛盾がある。</p> <p>③市民や自治会長の意見を聞く機会が少なすぎる。幅広く市民に説明をしてほしいです。</p>	
44	11	47 48 49 50 51 52 53 54 55	<p>具体性が欠ける計画案に対し具体案を提案させていただきます。御成小、市役所庁舎、第一小と最も中心的な価値があり面積も広い空間を、第一小新庁舎複合開発拠点（津波避難ビルとしても）として再開発（景観に配慮）することで、その他の計画書にある閉鎖縮小委託ソフト化を推進するのがよいと考えます。</p> <p>47 市役所・支所 市役所本庁舎と大船に支所だけ残し他は特定郵便局・コンビニなどと連携してハコモノを撤廃。また市役所は老朽化していて長期コストがかかることから、第一小に移転し拠点開発。市役所跡地は路面商業施設と第一小閉鎖に伴う校舎を増設。</p> <p>48 消防施設 これは欠かせない施設。ただ鎌倉消防署は倒壊危険性が高く津波被災確実な立地のため第一小新庁舎複合開発拠点に移転。現在の鎌倉消防署は半分の土地を売却し、半分は海岸専門部署とする。</p> <p>49 学校施設 施設のうち御成小に第一小を統合し当然足りない教室は市役所本庁舎跡地を利用</p> <p>50 こども青少年施設 旧鎌倉中心地のはすべて、第一小新庁舎複合施設開発拠点に移転</p> <p>51 子育て関連施設 旧鎌倉警察跡地借地に駅前型の大規模保育施設を建設各所を統廃合をすすめる。</p> <p>52 福祉関連施設 旧鎌倉中心地のはすべて、第一小新庁舎複合開発拠点に移転</p> <p>53 生涯学習センター 営繕し存続希望</p> <p>54 図書館 中央図書館は住宅地として適地のため売却し、第一小新庁舎複合開発拠点または旧鎌倉警察跡地の保育施設のワンフロアを利用し移転 その他は統廃合し広告入りメール便で配送する仕組みを検討する。</p> <p>55 スポーツ施設 第一小新庁舎複合開発拠点と鎌倉体育館は一体開発する。深沢に新しいハコモノは不要。鎌倉武道館ともれび温水プールは一部利用者の利益の割に重厚長大で維持費がかかるのなら厳しくあり方を見直す。</p>	<p>いただいた拠点整備に関する具体的なご提案は、今後行う地域拠点校の選定など具体的な検討の際の参考にさせていただきます。</p>

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
44 (続)	11 (続)	57 58	文化施設・芸術施設 鎌倉芸術館はあれだけの規模の不動産でありながら、運営費だけで赤字というのは信じられないあり方。計画書のとおり民間にまかせる方向が良い。 市営住宅景観を損なわない高度利用で統廃合の計画案を進めるべき。 以上 建築の専門家に第一小新庁舎複合開発拠点としてボリュームが合うか？を計算してもらったことがまずすべきことかと思えます。統廃合の悲しい話だけでなく、未来を描くストラクチャリングが市民も望む姿でしょう。第一小は由比ガ浜エリアではやや高台ですが、土地は少し道路から低くなっているので地階含め4層のフロアを魅力的に作り出せば、津波避難時に有効であり、周辺の価値も大きく高まると思われます。	(前ページからの続き)
45	28		平成 26 年 1 月 16 日 (木) 鎌倉都市計画土地地区画整理事業、鎌倉都市計画地区計画決定に係る公聴会の時点では、ごみ焼却施設候補地 4 箇所(野村総合研究所跡地、深沢地域総合整備事業地域内市有地、山崎下水道終末処理場、深沢クリーンセンター)、消防本署施設は計画になかった。当再編計画(素案)に深沢地域整備事業用地に消防本署施設が計画されている。当計画をしたのは、ごみ焼却施設を山崎下水道終末処理場用地に建設を誘導する目的に思える。ごみ焼却施設を山崎下水道終末処理場に建設する事は、迷惑施設をあらたに建設する事になり、当场周辺の住民に迷惑施設を又も押しつける事になる。出勤時の道路網から最適であり、山崎下水道終末処理場の南側の空地に消防本署施設を建設する。深沢地域整備事業用地にごみ焼却施設を建設する事が、公正で人間の道と考える。一市民として、二つの迷惑施設を当周辺の住民に押し付けるのは、問題であると考えます。 平成 26 年 1 月 16 日 (木) の公聴会の公述人意見に対し、市の考え方は、公述にある JR 所有地の取得や寄付を受ける事については、JR に対して御意見を伝えると共に協力を要請していきます。前記の事から、JR に協力を要請し、JR の回答を待ってから、再編計画を進める事が最善である。	消防施設については、施設の適正配置の観点で、深沢地域整備事業用地への消防本部の移転を計画していますが、深沢地域整備事業の進捗状況によりスケジュールや移転先についても変更となることがあります。
46	34		○行政センター等と小中学校等との建物の共用化計画は素晴らしく、ぜひ進めるべき。ただし、「学校と多世代交流スペースの管理区分も明確に分離」してしまう点については、せっかくの共用化メリットが中途半端となるので反対。隔離を前提とした共用化では、コスト削減効果が当初の建築費用だけに留まってしまい、そうした「後ろ向き(不便になるがやむをえない)」な動機の計画では、デメリットのほうが表面化する可能性が高い。むしろ、第一小学校、御成小学校、今泉小学校、手広中学校の多目的室の例にならい、「前向きな目的で」積極的に広いスペースの共用化(共用スペース・ゾーンへの片側の入口を学校側、反対側を行政センター等の側とする)を図り、学校開放学習施設とすべき。 1) まず、ゾーン隔離すべきとされる最大の理由はセキュリティ管理上の都合だと思われるが、IC カード方式のゲートの設置は今やオフィスビル等では常識となっているし、監視カメラ技術も高まっているので、安全は十分に担保可能である。そうしたゲートは、単なる入退館の扉としてではなく、入退館時刻の記録はもちろん、入館したままになっている人物の存在も判定できる。ICT 技術は日進月歩であるから、施設統合が具体化する数年以内にはさらに効率的・安心な技術が確立できるはずである。また、「管理区分を明確に区分するから安心」という理由を強調しなくてはならない(とお考えになった)背景は、そもそも今回の計画が「こういう方法でコスト削減を図らねば鎌倉市は将来やっていけないから、住民サービスレベルの低下はやむをえない」という後ろ向きな理由であるが故に、プラス面が強調できない(と考えてしまった)分、マイナス面である安全上の懸念が皆無だと強調しようとしたからではないのか。	ご提案いただきました国内外の事例や設備の区分などについては、今後行う具体的な検討や計画の見直しの際の参考にさせていただきます。

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
46 (続)	34 (続)		<p>むしろ共用化を推進することで、下に述べるような大きなメリットがあることを市民に訴求できれば、安全確保は解決可能な問題であることも自然体で伝えやすくなると思う。</p> <p>2) 小中学校には、通常教室や理科室・音楽室等の特別教室のような常時使う設備(タイプAとする。ただし、図書室を除く)以外に、プール・体育館のように時々使う設備(タイプBとする)、視聴覚(AV)教室・集会室のように年に何度か使用する「あったほうが望ましい」程度の設備(タイプCとする)がある。</p> <p>タイプAの設備については、児童・生徒の私物等も置かれているので、これらの存在するゾーンには学校関係者以外の立入りは現行同様厳しく制限すべきである。他の施設との建物の共用化を進めるのを良い機会として、ぜひ学校側のセキュリティ管理を強化願いたい。例えば、保護者証の発行はもちろん、市内の私立小学校や学習塾では児童にICカードを持たせ、学校や塾への登下校が家族の携帯電話等に通知されるのが一般化している。</p> <p>タイプBについては、こもれび山崎プールの成功を例に前向きに検討されると思うので詳しくは書かないが、「小学校のプールを減らす」という言い方ではなく、もっと積極的に民活を導入した施設の効率的運営を目指していただきたい。例えば、大船駅(横浜市側)のセサミ、藤沢のセントラルといったスポーツクラブとの施設共用化も検討願いたい。ちなみに、ゴミ焼却場のような迷惑施設はどの自治体も市境に建設するのが常であるが、むしろ、隣接自治体にも歓迎される施設を市境に建設して行く発想が、本来必要である。</p> <p>タイプCが本題である。例えば、音楽室は1室は不可欠だが、2室目はたまに使うかどうかであろう。また、年に数回の授業参観の際には、通常の音楽室の数倍規模の部屋のほうが望ましい。また、たまには学年単位で教育映画等を鑑賞したいこともあるだろう。そうしたニーズには1学年(1クラスの数倍)程度が入れる視聴覚(AV)教室が便利である。しかし、この部屋が活用されるのは年に数回であるから、通常時は、近隣住民の音楽サークル活動や企業のミニ研修会等の用途に低額の有償で貸し出すとよい。学校側のニーズ(平均して月に1回程度と予想される)が高いのは平日の朝8時~17時頃、住民のニーズが高いのは休日、企業のニーズが高いのは平日の夜間が主であるから、効率的なタイムシェアが期待できる。また、学校のクラブ活動用には10~20人程度が入れる集会室が5~10カ所程度あると便利だが、こうした部屋が使われるのは主に平日の15時~18時頃であろう。それ以外の時間帯、特に休日は、他のニーズ用に活用するのが効率的である。これらの視聴覚ルームや集会室をまとめた「共用ゾーン」を、同じ建物の中の「行政センター」ゾーンと「小中学校」ゾーンの中間位置に作り、「共用ゾーン」の両側に出入り口を作って、曜日・時間帯に応じてどちらの入り口を使うかを切り替えるのがよい。イメージとしては、国際線の搭乗口では、同じ機体・同じ搭乗ブリッジが、登機時には出発・出国フロアに接続され、降機時には到着・入国フロアに接続されるが、出国フロアと入国フロアは決して行き来できないのと同様である。なお、説明の都合上、学校の施設を不使用時に住民・企業に貸し出す形としたが、実際には、学校以外の使用時間の方が長くなるので、こもれび山崎プールと同様、一般利用時間のうちの一部を学校用に「貸し切る」と考えれば、いっそう実現可能と考えやすいと思われる。</p> <p>3) 積極的な施設共用のメリットとして2)に挙げた以外に、図書室(館)の共用については別の大きなメリットもある。例として、深沢図書館と深沢小学校の図書室を共用化することを考える。深沢図書館には閲覧スペースや学習スペースはほとんどない。混むのは休日であり、17以降もオープンしている</p>	(前ページからの続き)

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
46 (続)	34 (続)		<p>日は夜間の利用も多い。全体的に蔵書スペースは限られているし、特に児童書は限られた冊数しかない。深沢小学校の図書室には入ったことはないが、授業で使用する数少ない機会を別とすれば、児童が集まるのは早朝・昼休み・放課後にほぼ限られるはずだ。新聞はじめ、「鎌倉調べ」のような学習に適した資料が全て揃っていることはないのではだろうか？深沢図書館と深沢小学校の図書室を統合すれば、単純に蔵書数が増えるのではなく、重複した書籍が不要になる分、蔵書コストが節約できるか、同じ合計スペースと費用で蔵書の種類が増やせる。広々とした閲覧室は基本的に共用とし、早朝と昼休み～17時頃は児童専用とするが、それ以外の時間帯は原則一般利用とする。休み時間等に児童が本の貸し借りに利用する場合は、閲覧室（一般利用者がいるエリア）を経由せずに直接カウンターの人と話ができるようにする。本の貸し借りに必要な図書カードは、セキュリティ管理目的も兼ねて、一般利用者（図書館カード）も児童（児童証）も高度なICカードを所持するとよい。なお、忘れてならないのは、こうして深沢図書館と深沢小学校図書室を統合することで、司書のかたの数も合理化できる点である（主婦や高齢者の雇用機会とするため、徒に人員削減を考えないでいただきたい）。現在の人員数を維持するなら、シフト制を導入することによって「開館」時間を大幅に拡大することも可能になるはずである。こうした図書館と図書室の共用化は、大船図書館と大船中学でも実現しやすいと思われる。</p> <p>私が以前住んでいた米国カリフォルニア州サンノゼ市は、市立図書館と州立大学（SJSU）の図書室とを統合して大成功していた。これに関し、http://news.mynavi.jp/column/svalley/088/ には、次のような記述がある：【シリコンバレーに住み始めてから公立図書館を利用する機会が増えた。学究肌のリッチな人が多いためか、小さな街でも立派な施設の図書館があるのだ。ただ、シリコンバレーの景気が低迷し始めてからは、図書館の運営も苦しくなっているようで、最近では改革の動きが始まっている。そのような中、新システムとなったサンノゼ市の公立図書館がGale/Library Journal から全米の年間最優秀図書館に選出された。</p> <p>同図書館が新しいシステムを採り入れて再スタートしたのは昨年8月である。サンノゼ州立大学の図書館と合体し、地域でもっとも大きなキング Jr. 図書館の建物を二つの図書館が共有する形になった。これにより蔵書数は150万冊となり、大学の図書カードまたは市立図書館のカードを使って同じサービスを受けられるようになった。しかも、予約すればサンノゼ市にある16の図書館ですべての蔵書の貸出し・閲覧が可能となる。ライターのような商売をしていると、公立図書館では用が足りずに、専門書を求めて大学図書館まで足を延ばすことが多かったので、実にこのシステムはありがたい。利用できる書籍が増えただけではない。キング Jr. 図書館は、人気の大型書店のような雰囲気になった。1階にはTully'sのカフェがあり、ゲームやDVDコーナーも用意されている。図書室にはハリー・ポッター特集やワインコーナーなどがあるなど、書籍の配置やテーマ分けも本屋のアピール方法に近い。</p>	(前ページからの続き)



整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
46 (続)	34 (続)		<p>自動化も徹底されており、ユーザーはズラリと並んだインターネット接続パソコンでリサーチし、本を借りる時はATMのような備え付けの機械を使ってセルフサービスで行う。システムを理解すれば、カウンターに一度も並ばず、誰と話すことなく、本を探して借り出せるようになる。新システムの開始以来、図書館利用率は急上昇しており、サンノゼ市民の年間平均貸出数は15冊と、ベイエリア平均(6冊)の倍以上となっている。利用者アンケートでは、91%が「非常に優れたサービス」と評価しているそうだ。</p> <p>最近、日本では、リクエスト制度を重視してベストセラーを大量に購入する図書館が増え、出版社との間で論争を巻き起こしている。“サービス”という観点から小売のアプローチを積極的に取り入れようとする姿勢はサンノゼ市の図書館と共通している。だが、同図書館ではベストセラーの購入数は少なく、むしろサンノゼ州立大学との提携でも分かるように、専門書を手にとることができるのが強みである。図書館の本質的な役割は変えていない。それでも広く一般市民に利用してもらっている。</p> <p>新システム作りの中心となった同市の図書館ディレクターである Jane Light 氏は、図書館の役割を「情報のギャップを埋める存在」と説明する。それは今も昔も変わらない。本/新聞/雑誌が主役だったので図書館と呼ばれているが、より多くの情報を揃えて、人々に提供するという本来の役割では“情報館”と表現すべき場所なのだ。その意味では、今後はインターネットへの取り組みがカギになると指摘する。</p> <p>同図書館では、貸出作業が自動化されても司書の数は減らされていない。その分は、コンピュータの使い方やインターネットを使った効率的な検索方法のサポートや指導に回されている。結果、パソコン初心者でも、同図書館に通い続けるだけで、一通りのことができるようになる。そして、パソコンユーザーになれば、インターネットによって複数の図書館が結びつけられた情報館を利用できるようになる。デジタル格差の解消を第一歩とした、実にシリコンバレー的な図書館改革である。</p> <p>年間最優秀図書館に選ばれたのを踏み台にして、先週から「サンノゼ・スタイルの図書館(Libraries the San Jose Way)」と題したコンサルティング・サービスをスタートさせた。司書がパソコン・インストラクターとなったのに続いて、今度は起業コンサルタントである。半日コースで1,500ドル。情報技術を導入しながら従業員を減らさずに市場を大きくするノウハウは、図書館関係者以外からも注目されているそうだ。だが、その“サンノゼ・スタイル”という言葉からまず学ぶべきは、公立図書館でも旺盛な開拓精神なのかもしれない。</p> <p>八戸市教育委員会の学校図書館ネットワーク事業 (http://www.hachinohe.ed.jp/kyouiku/tosho kannw.pdf) は、「一つの学校であらゆるジャンルの本を網羅するのは予算的に難しい」、「総合的な学習の時間」などの調べ学習の際に、学習内容に見合った必要な資料や図書についての情報をスムーズに交換し合い学習効果をアップさせたい」という目的のために、各学校の蔵書をデータベース化し、ネットワークで連携すると共に、市立図書館から学校への団体貸出を実現したものである。私が上に述べたアイデアであれば、各小中学校の蔵書は自ずと鎌倉市立図書館のデータベースに登録されて鎌倉市の資産として共有されるほか、市立図書館の豊富な蔵書を児童・生徒が「学校の建物の中で」利用可能となることから、八戸市が目指した以上の効果が期待できる。</p>	(前ページからの続き)

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
46 (続)	34 (続)		<p>以上のように、施設を集約するにあたって、より正確には施設の所在地を変更すること自体にあたっては、従来の場所に馴染んだかたに不便とならないよう、施設の旧所在地と新所在地の間の連絡交通手段が必要である。公共施設の話ではないが、湘南鎌倉総合病院が山崎から岡本に移転し、近所や京急 PONY 号で利用していた患者・住民は不便に感じているが、旧病院所在地と新病院とを結ぶマイクロバス及び新たに大船駅と新病院とを往復するマイクロバスを湘南鎌倉総合病院が無料で運行している。</p> <p>今回の鎌倉市の計画では旧施設跡地は売却する予定なので、全く同じような運用はできないと思われるが、旧施設の所在地近隣で利用者の多いバス停・モノレール駅や他の公共施設及びコンビニ等と新施設や鉄道駅等とを頻繁に巡回する EV ミニバス (PONY 号、こまわり君のサイズ。EV のミニバスは早稲田大学らのグループが、環境省の資金を利用して開発した実用モデル WEB-4 が存在する。) を運行すべきである。ただし、具体的な運行運営については工夫が必要である。なぜなら、市が直接運行するにはノウハウがないし、公務員が運営するとコストが高くなる上に、夜間や休日の運行がしにくくなる。といって、市の費用負担で外部業者に運行だけを委託すると市場原理が働かず、やはり効率が低下する。そこで、ここでもこもれば山崎プールと同様の PFI 方式が必要である。ただし、運賃は無料かごく低料金とすべきなので、IC カード等を利用して、運行事業者が利用者数を把握し、必要額の補助金を市に請求するスタイルが現実的である。このスタイルであれば、事業者は利用が増えるよう、さまざまな経営の工夫を行うであろう。この際、公共施設利用を主目的としない場合でも乗車を制限しないことが望ましい。別目的でいずれにしろ運行している交通手段が、老人等の買い物難民救済にも役立つなら、「便乗」は大歓迎と考えてよいはずである。ただし、そのような便乗者の利用料も市の予算で補助することに対しては納税者の批判も予想されるので、この車両を EV としておけば「この EV ミニバスを使ってもらうことで、自家用車・バイク等による CO2 排出を避けることができる」ことが大義名分となるであろう。</p>	(前ページからの続き)
47	38	八、P59 ～再編 後の施 設配置 とコス ト	<p>コストから考える手法に違和感を感じます。決して、複合施設にしてはならないものがあります。機能が一緒だから、などと、さまざまな理屈をつけて強行しようとしています。冒頭に述べたように、論の立て方がさかさまで、こんなことを強行すれば、人口はどんどん減り、若い家族は市外転出を加速化させるでしょう。入り口を変えれば、安全を確保できるとき複合化は、全く知らない人の机上のプランにしか過ぎません。</p> <p>●決して、複合施設にしてはならないものはいろいろあります。</p> <p>1～2、例示しますと、まず学校です。</p> <p>「学校は、職員室と教室があればよい」暴論を審議会で直接お聞きして、私は啞然としました。</p> <p>いまの市民への学校開放の程度や、当該学校の子どもたちの関連施設以外は、この素案を強行すれば鎌倉市における子どもを持つ家族人口は減少し、何かの事件が起きるかも。起きてからでは遅いのです。子どもの発達の過程、さまざまな特徴を持った子どもたちの学びと成長の場を混乱に陥れることは避けるべきです。入り口が違えば、さまざまな複合施設を作っても何とかなるといレベルの問題ではありません。学校図書館と市立図書館と、違うのはそれなりの理由があるからで、よって立つ法律も違います。一緒にする安易な考えは、子どもの成長も、市民の生涯学習の場も、両方奪います。</p>	再編を具体的に進めるにあたり、関係者等との十分な意見交換等は必要と考えます。ご意見を参考にしながら進めていきたいと考えています。

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
47 (続)	38 (続)		<p>いくら「機能から考える」今回の素案の根底から見ても、保健室と保健所を合併したりしないのは歴然としていますが、素案に書かれているようなコストから出発した考えは、子どもの育ちを知らない、学校教育の存立すら理解しない方の安易さからの提案です、もっと詳細に論証したいのですが、紙面では意を尽くせません。発展途上の問題を知らな過ぎます。</p> <p>二つめは、支所・各地域図書館・行政センター機能は更に拡充こそすれ、抹消すべきではありません。この支所機能などを拠点に、更に細かく、市民により近い場所に、寄贈された邸宅や土地を利用して、「市民の福祉に資する」地方自治法の本旨を実行に移すことです。</p> <p>たとえば、新設された「鎌倉青少年会館」に備わっている機能・デイケア・子どもの家、乳幼児親子の利用施設、市民の多様なニーズ合わせた施設の設置、プール、運動施設などが郵便番号の地域ごとに出来たら、どれだけ豊かな乳幼児から、高齢者までの複合施設として、鎌倉の誇るべき市民活動の場として市外にも知れ渡り、鎌倉で住みたい人口を増やすことにもなり、健康寿命が10歳延びれば、その取り組みで雇用が生まれ、市民自治活動が活発化し、市の支出が減り、税収が増加しませんか。三つめは中央図書館・地域図書館です。複合はいけません。文化都市として更に充実あるのみです。他にもありますが、、、</p>	(前ページからの続き)
48	48	全ページ	子どもたちが利用する図書館や青少年センター、子ども会館、保育園、小中学校の計画案をしっかりと考えて欲しいです。	
49	58		<p>2. 設備更新問題として鎌倉市長のロードマップ案と思われる計画について問題となる事項を数点もうしあげます。</p> <p>(6) 学校の複合化について。鎌倉市の人口減、特に小中学生の減少を予測して校舎の余裕を「有効活用する計画」のようだが、先ずは教育環境の向上こそが第1位の課題であり、せいぜい学童保育を小学校に併設すること、程度ではなかろうか？学童保育にしても、よりきめ細かく住宅地に近く設置させるべきで、中学校を含めて近くに学校が無い地域にはいまの子どもの家や子ども会館を残し充実し、新設も望ましいかたちで複合検討すべきではなかろうか。犯罪防止のみでなく防災面も十分配慮して案を市民に示すべきである。</p> <p>(7) 各種公共図書館について。今回の素案ではTSUTAYAにPEI制度ではないが人気優先の運営案は見当たらないようであるが、かつての「例示」は反対の意見を書いた覚えがある。腰越以外は古くなっているが、例えば玉縄図書館がスペースに不満があるものの、従って雑誌等の棚は不十分と思うがそれ以上の不満は思い当たらない。今回は「地域拠点(小・中?)学校」を3例示しているが、54ページにあるように「・・・小中学校の近くがよい」というのは理由として薄弱ではなかろうか。交通の便が良いことのほうが重要である。無意味な複合化原則はわずらわしくなる。</p> <p>(8) 文化施設について。古い言葉かも知れないが「公会堂と呼べるもの」は、ホールと広いエントランスホールと地下展示室のある現「生涯学習センター」位であり、もう一つは現「鎌倉芸術館」ではないかと考える。市民活動に不可欠なロッカーや印刷機、気楽なミーティング・フロアがあればなお活動団体の利便性が大きくなる。そのような施設は「利益者負担」を強めれば公共性が弱まることになる。すべての市民活動を推進するためには、5つの地域にこだわらないとしても、市民の税金でまかなう市民活動に資する施設がもっと必要である。</p> <p>3. 一応のまとめとして。公共施設は市の職員と大勢の市民との不断の意見交換が不可欠である。市の職員は縦割りの習慣を離れて、市民の発送を重視して再編計画を練っていただきたい。</p>	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
50	10		(3) 学校施設、(4) 子ども・青少年施設、(5) 子育て関連施設、(6) 福祉関連施設、(7) 生涯学習センター、(8) 図書館、(10) 文化施設・鎌倉美術館、及び(11) 市営住宅については、再編方針に賛成です。	(前ページからの続き)
51	10	47	(1) 本庁舎・支所 本庁舎は現在地長寿命化、現在地建替えが望ましい。深沢整備事業用地等への移転には反対です。 【理由】： 中長期計画によれば5支所全てが廃止になり、市民が本庁に行く機会は現在より多くなることが予想されます。現在地はJR駅に近接しており、極めて便利です。これに比べ深沢地区の交通手段の道路は渋滞し、モノレールは将来とも輸送力の増強は期待できません。自動車の利用を抑制し、公共交通への転換を政策に掲げていますが、深沢地区への移転はこれに反します。	本庁舎については、いただいたご意見も参考にしながら、平成28年度までに、建替え・移転等の方針を決定する予定です。
52	34	23、49	市役所本庁舎への窓口業務の集約は、非現実的である。「現在地で本庁舎の建替えを行う場合は、建物高さの制限等により、最大でも現状と同等の規模程度となるため、大規模な他施設との複合化等は難しい」と、あるとおり、窓口の分散状態を維持せざるを得ないはず。コンビニへの委託も確かに一案ではあるが、極めて機密性の高い個人情報の扱いを、コンビニのアルバイト店員に任せてよいとは思えない。コンビニのアルバイト店員には、公務員となる資格のない外国人も多い。なお、本庁舎の床面積拡大のためには、万一の津波等浸水被害の際にも致命的な被害を負いにくい駐車場や市議会場等の施設を地階に多層的に建設するしかないのではないかと？地下駐車場という点では、道路向かいのスターバックスや紀伊国屋の地下と一体化した大型有料駐車場とすることが望ましいと思われる。それによって市役所前交差点の地上部の敷地を少し区画整理し、歪みのない十字路とすること等も可能となると考えられる。なお、本庁舎の地上部は、できれば、「準世界遺産」にふさわしい大型木造建築としてはいかがか。	
53	10	48	(2) 消防施設 消防施設数を削減することに反対です。 【理由】： 本市は道路事情が悪く、至る所で渋滞が発生しています。消防活動・救急活動は一刻を争って現場に急行する必要があります。消防施設を削減したり、統合することは現場への到着時間を遅らせることになり、市民生活の安全確保上憂慮すべきことです。	消防施設の配置については、いただいたご意見も参考にしながら、消防本部と共に検討を行い、消防活動に支障がないよう最適な配置を検討していきます。
54	3	49 60	学校プールの縮小に反対です。引越してきて学校にプールのない状況に驚きました。ふやしこそすれ、へらすべきではありません。又、プールは災害の時の大切な資財になります。 小・中4校程度統廃合に反対します。又学校の複合化についても、安易に考えられていることが心配です。	学校プールは学習指導要領に基づき設置されるものであり、立地や防災の観点なども踏まえ、十分に関係者と意見交換を行いながら進めていきたいと考えています。
55	7	49	○「学校プールを段階的に縮小する」ということについて 現在も第一小、御成小、稲村ヶ崎小などは敷地内にプールがなく、海浜公園プールを利用して水泳学習を行っています。①プールへの往復に時間を要するために授業時数の確保に苦慮している、②全面貸切ではないため、思うような活動ができなかったり、不審者の対応に苦慮したりしているなどの課題があります。このような計画は、学校のことを知らない人たちがお金のことを考えて立案したと言わざるを得ず、反対です。もし計画通りに学校プールを縮小し、市民が使用するプールを共用する学校が増える場合は、プールの全面貸切、往復のための送迎バスの手配等の対応が最低限必要になると考えます。	学校については、各行政地域に1校の拠点校を選定し、児童生徒の教育環境に十分配慮しながら地域コミュニティの拠点としていく考えです。

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
55 (続)	7 (続)	49	<p>○「拠点校を整備する」ということについて 「安全性等に配慮した上で」ということですが、具体的にはどのような対応を考えているのでしょうか。それが示されないと本当に安全を確保できるのか心配です。また、拠点校において、市民と施設の共用となった場合、学校の教育活動を最優先しなければならないのは言うまでもないことだと考えますが、そうすると市民の利用がかなり制限されることが予想され、市民の理解が得られるか心配です。</p> <p>○計画の立案過程について 学校施設に係る再編内容を見ると、学校教育に対する影響がかなり大きいと考えられるにもかかわらず、この計画を立案する「公共施設再編計画策定委員会」のメンバーには教育の専門家が含まれておらず、十分な検討や正しい判断ができるのか疑問です。ぜひ教育の専門家の意見をしっかりと聞いて、計画に反映してください。鎌倉の将来の子どもたちのことを真摯に考えてください。</p>	(前ページからの続き) 地域拠点校については、児童・生徒の安全や防犯に留意し、管理区分を明確にする計画を前提に考えています。 拠点校の選定をはじめ、学校の建替え等の計画においては、十分に関係者との意見交換を行いながら進めていきたいと考えています。
56	18		<p>学校は現状では、安全面においてあえて閉鎖された空間になるよう配慮しています。学校の敷地内すべてが教育の空間です。運動場は、体育で使うのはもちろんのこと、外遊びは授業の合間の気分転換やコミュニケーションの貴重な場面です。校庭では理科の観察等自然に親しむ場面もあります。この空間に不特定多数の人が出入りするのとは、とても不安があります。交通面、不審者対応面の安全の確保、子供たちの情緒面の配慮は十分に出来るのでしょうか。現場の声も聞いていただきたいです。よろしく願いします。</p>	
57	19		<p>現在の鎌倉市の公共施設の状況と今後想定される少子高齢化を考慮しますと、複合化や共用化を含めて検討することは致し方ない部分もあります。しかし、それぞれの公共施設が本来持つ機能を損なったり、現在働いている人たちの意見が反映されなかったりすることがないように進めていただければと思います。とりわけ学校においては、他の公共施設とは違い、子どもたちが一日の大半を過ごす場所であり、日々、学校に関わる人たちが、子どもの安心・安全を考慮し、また、授業や行事などを滞りないようにすすめるために、それぞれの学校が教育課程を編成しながら取り組んでいます。また、災害時においては避難所としての役割も果たす場所です。例を出しますと、埼玉県志木小学校が図書館や公民館との複合施設を作る際も、学校で働く教職員、子どもを通わす保護者、その周りに住む地域の人たちと十分な話し合いが持たれ、「なぜ・誰のための複合施設か」の理念が共有されながら進められました。もちろん、そのための時間や労力は計り知れず、だからこそよりよいものが生まれると考えられます。一部の人たちの理想や合理的な話し合いで決めるのではなく、大変でも、たくさんの関わる人の意見を踏まえながら進めるべきだと考えます。</p> <p>繰り返しますが、それぞれの公共施設が、それぞれの目的がしっかり達成される、鎌倉市の公共施設再編計画を望みます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>	
58	23	49	<p>学校施設 子どもが小学校に通っています。この計画が軌道に乗ったときは、孫の世代になると思います。遠い話ですが、そのとき、市政が充実し、地域と学校とが協力しあい、子どもたちを見守り育てていく豊かな環境ができていくことを望みます。計画を見て、学校の複合化ということが大きな柱だと感じましたが、まずは子どもたちの安全と学習環境の確保、そして災害時への対応に強い施設を第一に考えてほしいです。そのためには、土地の広さ、施設のデザインの工夫が必要です。</p>	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
58 (続)	23 (続)	49	不審者などが簡単に学校へ侵入しないこと(図書館や家庭科室などの共有)、また複合型施設を管理する担当者も設置していただく必要があります。学校の先生方に施設の管理を任せることはしないしてほしいです。それぞれの仕事をしていただき、市民との窓口になって統括する方が必要です。また、プールの削減とありましたが、ただでさえプールが各学校にない鎌倉市は、今後学校教育からプール学習をなくしていく方針なのか、と危惧します。プールは災害時の水の確保にも役立つかと思っておりましたが、違うのでしょうか。学校では泳げるようにはならない、とスイミングに通わせる方も多いです。泳げる子と全く泳げない子との差がはげしいと思います。施設再編という観点からではなく、教育委員会などのご意見も伺いたいです。また、このアイデアには、教育庁、教育委員会、校長会、PTA連盟、こどもの家などの施設関係者などの意見は反映されているのでしょうか？	(前ページからの続き)
59	26	49	学校施設 小中学校4校が統廃合される時通学距離の遠カク化が心配 今でも当市は淋しい山道などあり、最近の幼児ユウカイが心配である。	
60	32		計画では、拠点校に複合化する施設は、図書館だけではない。各施設の機能の維持について十分な検討が必要である。複合化は子どもたちのためになるのか。鎌倉市の未来を託す子どもたちの学びを保障することができるのか大きな疑問である。 プールがない学校が多い、視聴覚教室は一般教室と変わらない、空調整備が整っていないような現在の学校施設が十分な教育環境であると考えているのでしょうか。全国を見れば、独自で35人学級を実現している県もある。今後、35人学級、30人学級の導入も考えられる中、限られた教育施設を他の機能に利用する余裕はないと考える。 経費削減のためであれば、教育に必要な施設でさえ、売却する。子どもたちと不特定多数の住民との抵触をよいことと捉えることは、今までの不審者の侵入を防ぐための警備員配置の意味を否定する。経費削減を第一にして、その他のことは考慮しない。今までの理念さえ、否定するような公共施設再編案には反対である。	
61	35	49	再編方針にある小学校に子どもの家・子ども会館を複合化していくこと、地域拠点校として地域活動支援機能を統合していく方針について、安全性の危惧、児童の公私の欠如感を危惧しています。 いろいろな人の出入りが予想されます。多世代との教育的交流・秩序ある交流は、学校の教育活動の中にもありますが、不特定多数の偶発的な出会いは、危険性もあります。過去には大阪の池田小学校のような事件、最近では神戸市長田区のような事件もありました。小さいことを申せば、児童を盗撮することもあると思います。また、児童と大人世代とは音に対する感覚も大きく違うと思われれます。例えば、運動会の練習音がシルバー世代の活動にどれだけ雑音になってしまうかということも心配です。 また、小学校に子どもの家・子ども会館を複合化していくようになると児童に公私の欠如感がでてくるのが危惧されます。小学校ではお菓子は食べません。学校に学習と関係ないものは持ってこない約束をしています。はじめのある生活が送れるように日頃から指導をしています。放課後の学校に隣接した子どもの家・子ども会館は、帰宅した子と帰宅途中の子が混在する可能性があります。場合によっては、通学路が日によって変わってしまうことも出てくるかもしれません。子どもの家に籍を置いていない子が、本来10分・15分で下校するところを2時間かかって帰る「寄り道癖」を育てることになりかねません。	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
61 (続)	35 (続)	49	<p>この部分は施設のハードに対して、指導・しつけとも言えるソフトの部分ですが、大変大きな課題です。鎌倉で育った人は「寄り道癖」があると指摘されないことを願います。</p> <p>「学校教育施設との管理区分を明確に分離した上で・・・」とある明確な分離を徹底していただきたいと考えます。その意味で、空間的・物理的分筆が必要です。そして、小学校にはしっかりとした警備体制を組んでいただきたいと考えます。</p> <p>そして、将来的に現市役所の敷地及び駐車場には高層の建物を造っていただきたいと考えます。市民は津波への不安感をもっています。避難できる建物があれば安心感のある生活ができると思います。また、併せてこの場所に地域の拠点としての複合的公共施設を集中させれば良いと考えます。</p> <p>なお、御成小学校の講堂の跡地には、市民が通年で使えるプールの建設を望みます。プールは夏季のみの使用であると塩素で機械が錆びついてしまい、逆に維持費がかかってしまうと思います。一般の市民には有料で使用してもらい、旧鎌倉の小中学校は使用期間を5月頃より期間を長くして、交替で使用するようなシステムにすればよいと考えます。</p>	(前ページからの続き)
62	38	九、60P ～	<p>学校の削減はいけません。2014年10月の18号、19号台風の避難勧告を出した市が、避難場所をお願いしたのは全ての小学校でした。市民の安心安全に繋がりました。災害のとき、避難勧告、避難指示のとき、一番沢山の市民に来ていただき、安全が確保され、しばらくの避難が出来るのは小学校、中学校、高校です。そんなにつぶすことばかり考えないでください。説明会で、「鎌倉は寺社仏閣に願います」と回答されましたが、よその災害で、観光客が帰れなくなったときの1泊くらいの避難場所はそれでもいいかもしれません。学校敷地内の山崩れ、駐車場の自動車の損害はありませんでしたが、寺社仏閣などはいろいろなご苦労がありました。関東大震災以来、震度7や8の体験がない鎌倉とこの策定をされた方々のお考えは、体験者の私は「甘い」と感じています。神社仏閣で、耐震工事が出来ており、敷地内は崩れないなど、また多くの排泄の処理まで長期にわたって処理できる施設がありますか。最も身近にある小学校3校、中学校1校つぶすのは、もってのほかです。ここはすべての学校にプールがないので想像できないことですが、プールの水は大事な災害時の資源です。</p> <p>西宮市のように、郵便番号別の町内に広い公園を二つも三つも、いつつもっていて、そこに、市が市の土地なので仮設住宅を建てて、近所の自分の家の再建をしながら過ごせるなど、鎌倉では想像も出来ないことですが、だから、学校は大切なのです。</p> <p>ライフラインがどうなるか、ここでは多分、体験上悲惨の一語です。沖縄を除く46都道府県の援助で、阪神淡路は生きていました。毎日大阪市のごみ収集車がごみを大阪に持ち帰ってくださり、飲料水は高知県の給水車が毎日給水に来て、ガスは東京ガスがすべて修理復旧していただきました。帰らぬ人となった方々は、奈良市や箕面市から迎えに来ていただきました。震度7以上の都市災害はそういうものです。</p>	
63	41		<p>拠点校に公共施設を集約するということは、その拠点校には、児童だけではなく、いろいろな立場や考え方をお持ちになる方々が多数出入りすることになります。児童が狙われる事件が多い中、学校に出入りできる人数を増やすことにより、児童の安全が著しく損なわれる可能性があります。また、子供の家を学校内に統合すると、移動が少なく安全な反面、児童の気持ちが切り替わらないというデメリットもあります。学校が絡むからには、財政の面からだけではなく、児童の気持ちと安全を最優先にして、将来の社会を担う子供たちのことを考えて計画を進めていただくようどうぞよろしくお願いします。</p>	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
64	49		学校施設の再編について地域拠点校は学校の立地、用途地域、敷地面積、人口密度等を考慮し、今後選定する。とあるが拠点校の地図を見ると深沢中のエリアの深沢小、富士塚小、山崎小が入っている。現在まで山崎小の児童は大船中に進学しており、教育委員会も大船中と山崎小学校の小中連携を基本に進めてきている経過がある。もしも、この拠点校の考えでいくと学区の見直しの際に、山崎小の児童は深沢中に進学することを想定しているのかとも考えられるが、深沢小と山崎小の児童数を考えると市内でも大規模な小学校2校から深沢中に進むことになり、受け入れ側の中学校の許容量も心配される。今までの小中連携のあり方や地域とのつながり等も配慮して地域拠点校と学区の再編について必ず教育委員会とも連携を取って考えてほしい。	(前ページからの続き)
65	53	49、54	学校施設の再編内容で、H28年度までに地域拠点校5校を絞り込むとあるが、当事者である学校の先生方、保護者が全く知らない中でここまで具体的に決めてしまうのは問題。学校図書室と市立図書館（地域図書館）統合はそれぞれの施設の目的が違い法律も異なるもの。司書など専門家の意見をもっと聞くべき。専門性の高い施設は安易に統合・複合してはならない。	
66	54		空き教室の利用ということで学校のシキ地内に誰でもが入って行けるようにはしないで欲しい。	
67	16	25	<p>第一種低層住居専用地域が多い事から他施設との複合化には留意が必要とのですが、「統廃合」についての記述がありません。今年6月に開催されたワークショップに参加しましたが、その時も財政上の懸念がないことから学校の統廃合は考えていないとお話でした。しかし、少子高齢化が進む中で学校そのものを維持するのが本当に良い事なのか？私は、これを機会に根本的な発想の転換が必要と考えます。詳しくは次ページ以降にまとめますが、積極的な学校の統廃合を検討すべきではないかと考えます。私が提案したいのは、『スクールバスを利用した学校の統廃合』です。</p> <p>公立学校でのスクールバスなど全国的にも殆んどありません。私の知る限りでは札幌市立資生館小学校しか知りません。しかし、少子高齢化が進む中では、大変参考になる事例として鎌倉市でも効果が期待できると考えます。例えば、稲村ヶ崎小学校は学年二組の小規模校です。全校でも216人規模です。単純計算でもバスで最寄りの七里ガ浜小学校に運べば5-6台で生徒が移動出来ます。実際には道幅が狭く、マイクロバスのピストン輸送となるかと思いますが、時間帯の調整で数台のバスで学区内を循環できると考えます。路線バスの値段なら2キロ程度ですから片道100円往復で200円、216人分として1日43200円、月20日としたら、月100万円弱となります。この金額なら校長先生・教頭先生・事務員さんや学校の光熱費など運用費用と比較したらはるかに安くなります。もちろん、チャーターバスとなると上記の単純計算ではすみませんが、それでも月200万円程度で、朝・夕のスクールバスの運用は可能ではないかと考えます。治安を考えると自宅の最寄り場所まで送迎されますので、昨今の凶悪事件の対策としても求められるのではないのでしょうか。一方、廃校となる稲村ヶ崎小学校は、高齢者向け福祉施設に改築もしくは売却します。給食室・保健室・音楽室・図書室などそのまま使え、エレベーターや入浴施設をつければ、立派な施設になるでしょう。</p> <p>ここでスクールバスを利用すると、七里ガ浜小学校から戻るバスには七里ガ浜地区の高齢者を稲村ヶ崎小学校に運ぶことができ、一日すごしたら、夕方のスクールバスで七里ヶ浜地区に戻ることも可能と考えます。朝の時間帯は、通勤通学客でバスがフル稼働となるためバス会社の協力が得られるか？など課題はあるかと思いますが、例えば葬儀会社に協力してもらい、朝だけマイクロバスを貸し出してもらうなどバス会社以外にも協力をしてもらいます。</p>	<p>施設分類別の再編内容において、長期の取組として、将来の児童数・生徒数の見込みに合わせ、統廃合についての検討を行うこととしています。</p> <p>いただいたスクールバスを利用した学校の統廃合のご提案については、今後行う具体的な検討や計画の見直しの際の参考にさせていただきます。</p>

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
67 (続)	16 (続)		<p>朝、9時に葬式する葬儀社はないでしょうから、マイクロバスはアイドルタイムではないでしょうか？課題はありますが、知恵を絞れば克服できると考えます。</p> <p>これがうまくいければ、第一小学校を御成小学校と統合して「津波対策」としての利用方法も考えたいと思います。海に近い第一小学校は津波を受けたら多くの犠牲者が懸念されます。少しでも海拔の高い御成小学校なら万一の時に被害を最小化できるでしょう。これも、課題はありますが、「安全・安心」の視点で課題を克服していけるのではないかと考えます。</p> <p>鎌倉市の少子化対策がどのように進むかわかりませんが、これからは人口の増減に合わせて学校を検討するのではなく、スクールバスの増減やコースの見直しにより、今ある施設を集約し、利用技術を検討することで調整していくのが望ましいと考えます。</p>	(前ページからの続き)
68	34	全般	<p>○高齢者等が多く利用する公共施設の入口・庭と小中学校の校庭とは、仮に隔離するにしても、お互いの目視が可能な簡易フェンスや透明アクリル板等で仕切るべきである。先進的な医療で有名な安房鴨川の亀田病院の経営幹部から聴取した話であるが、高齢者にとっては子ども達の活動を目にすることがボケ防止に役立つし、子ども達にとっても高齢者問題という社会問題の勉強になる、という効果が期待できるそうである。同様に、保育園等の施設も、高齢者むけ施設や小中学校と「低い垣根」で同居させることが望ましい。</p>	<p>地域拠点校については、児童・生徒の安全や防犯に留意し、管理区分を明確にする計画を前提に考えています。</p> <p>区分の方法については、十分に関係者との意見交換を行いながら進めていきたいと考えています。</p>
69	8	26	<p>老人福祉センター等の浴場を有料化する。入口に100円入れるケースを置き小銭を集める。</p> <p>希望：JR跡地。問題点：ゴミ、車、道路。イメージ：歴史と自然に満ちた小公園都市。施設：もったいないという気持。</p>	<p>いただいたご意見も参考しながら、福祉関連施設のあり方を検討していきます。</p>
70	22	53	<p>借地にある鎌倉生涯学習センターですが、扇ガ谷の「世界文化遺産ガイドセンター予定地」の場所へ移転をご検討下さい。</p> <p>鎌倉の考古学、歴史、美術を体系的に学べる博物館と、生きた学習体験ができる学習センターの複合化を希望します。老若男女問わず市民に開かれたワークショップや、ミニコンサート、ミニギャラリーが備わっていると、活用頻度も期待できると思います。</p> <p>PFIによる民の運営で、コストパフォーマンスの向上を図って頂きたいです。</p> <p>保育施設・福祉施設の複合化も可能であれば是非検討願っています。</p>	<p>扇ガ谷の用地では、(仮)鎌倉歴史文化交流センターの整備が進められているため、鎌倉生涯学習センターの移転先とすることは困難ですが、いただいたご意見も参考にしながら、生涯学習施設やサービスのあり方について、検討していきます。</p>
71	1		<p>子供がいるので図書館を良く利用するものです。図書館に行くたびに若いお母さんやお年寄りの方が本を重そうに抱えておられる姿を良く目にします。以前設計に関わった図書館も市営駐車場が図書館の脇にあったために図書館の利用者数が格段に伸びたと伺っています。</p> <p>鎌倉市役所を建て替える時期に来ていると紙面で拝見しましたが、図書館と市役所、駐車場を一体的に再整備し、小さな子供からお年寄りまでが安心して立ち寄れる公共施設の再編を強く望みます。</p> <p>本の利用者が伸びないのも本の重さを考慮していない公共施設計画になっている部分も大きいと気付いてほしいです。本の量もそうですが図書館という空間をもっと清潔で明るいものにしてもらいたい。</p>	<p>いただいた図書館の駐車場整備などについてのご意見は、今後行う具体的な検討の参考にさせていただきます。</p>

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
72	27		<p>アンケートでは図書館の利用率は行政センターに次いで多いようです。是非現状維持を御願ひしたいです。</p> <p>図書館地域館は予約本の貸出、返却するだけの場所との認識を多くの方はされているようですが、実際の利用者の滞在期間はもっと長いです。読みたい本を棚をまわりながら選ぶ楽しみは本屋さんに行って雑誌や新刊、文庫の売り場をまわって本棚をみたり、中身をちょっと見たりするのと同じです。高齢者の方の研究利用なども多く娯楽のためだけでなく利用されていることを実感します。自分で本を選ぶ楽しみは本が実際にあるところで感じられるものだと思います。データだけで本を選ぶことは（特に今のシステムでは）楽しくありません。</p> <p>これから鎌倉で大人になっていく子どもたちのまわりに選べる本をたくさんおいてほしいです。「中央図書館にはたくさんあるからそこに行きなさい」ではなく、子どもたちが無理なく行ける範囲に本があってほしいのです。地域館は学校から近いこともあり、子どもたちの行きやすい場所です。どんな目的であれ子供たちの行く場所があるということはとても大事なことだと思います。本の貸出だけではない、だれでも違和感なくいける図書館という場所の存在意義があると思います。</p> <p>深沢の再開発地域の図面は拡大しても字がよめず分かりづらかったのですが、こちらの土地の建ぺい率などを特別に上げて効率的な運用ができればいいとは思いました。市のどこの地域からもある程度の時間でこられる場所だと思います。交通環境さえ整えればおおいに発展できる場所ではないでしょうか。鎌倉市民の社会教育が廃らないようがんばってください。こんな公共施設があるなら鎌倉に住もうか！と他市の人に思ってもらえるような施設にしてほしいです。</p>	<p>素案では、中央図書館以外については、貸出し機能のみに特化する内容としていましたが、多世代交流機能の内容の見直し等、地域における図書サービスの提供機能について再検討を行います。</p> <p>また、深沢地域整備事業用地は、本市にとって、貴重な用地であることから、当該事業用地については、公共施設再編計画との整合を図りながら、導入する公共施設に係る事業計画の検討を行い、有効活用を図っていきたくと考えています。</p>
73	30		<p>財政状況を鑑みての壮大な計画案の準備にあたって、ご苦労なされたことと思います。</p> <p>しかしながら、鎌倉市図書館発信の第二次図書館サービス計画が策定され、実施初年度にこのような再編計画案が持ち上がり大変驚いております。</p> <p>第二次図書館サービス計画は、第一次サービス計画を時代に合わせて見直し、「鎌倉市総合計画」との調和を保つものとして策定されました。館内の職員の方々が十分に議論を尽くし、原案を作るにあたっては、市民アンケート計 2276 人の意見を参考にし、また最終策定に至るまでには 94 項目ものパブリックコメントが寄せられました。この計画は文部科学省の基準に基づいたものと記憶しております。</p> <p>人は様々な分野に興味を持ち、ライフワークを柱に高齢化社会を迎えようとしております。そのあらゆる分野を網羅し、書物や情報を提供することで市民を支えることができるのは図書館だけだと思います。今回の公共施設再編計画（案）をそのまま進めるのは時流に照らし合わせても図書館のあるべき姿にそぐわないと感じました。図書館の再編の項を読んで、疑問に思ったことを素直に述べさせていただきます。項目整理もなく、疑問に思った点そのままの羅列になることをお許しください。また、全部を詳細に把握しているわけではないので、誤った解釈もあるかと思いますが、ご容赦くださいませ。</p> <p>①図書館はこれからの時代、生涯学習の拠点になる言われている。横浜のある地域感一つをみても、「人間力の付く読書術」など今までとは違う面白い企画を提供している。相対的にみて、利用者の数は他の施設より格段に多いと思う。その点からみて、地域活動支援機能に貸出返却機能のみの図書館が組み込まれているのは果たして市民への平等かつ十分なサービスに繋がるだろうか？地理的に考えても、地域拠点校が交通の利便性に優れていない場合は、今以上に不便になる。高齢化社会が進むとなると、便利で使いやすいところにあることが望ましい。</p>	<p>素案では、中央図書館以外については、貸出し機能のみに特化する内容としていましたが、多世代交流機能の内容の見直し等、地域における図書サービスの提供機能について再検討を行います。</p> <p>地域の図書サービスの提供機能の検討においては、十分に関係者との意見交換を行いながら進めていきたくと考えています。</p> <p>公共施設再編計画市民 web アンケートは、平成 26 年 3 月に web リサーチ会社の登録者 2,243 人（鎌倉市在住の 18 歳以上の方）を対象に実施し、622 人の方から回答がありました（素案の資料 4）。</p>

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
73 (続)	30 (続)		<p>②WEB アンケート結果を持って再編方針を肯定しているが、何人の意見があり、それは市民全体の何パーセントであるかの記述が無い。図書館が実施したアンケートとこの WEB アンケートの時期が同じであるのに、異なる結果がでていることに違和感がある。パソコンを用いての WEB アンケートを出すことができる市民は限られており、平等に意見を聞いた結果とは判断し難い。図書館独自のアンケートをより多数の市民の声と判断する方が妥当ではないだろうか。</p> <p>③今回の提案の一番大きな問題は、図書館が現行の 5 館から中央 1 館のみに減るということである。「図書館の設置および望ましい基準」では人口 1 万人以下の都市で 1 館、15 万から 20 万人の都市では 6.2 館の設置が望ましいとある。これほどのサービス低下を提案するということは市民生活の文化レベルを落とす気がする。文科省の目標基準も大幅に下回り、市民が図書館を利用する権利が失われていくのではないだろうか。</p> <p>④本を閲覧し、自分の目で選び借りるというスペースを無くし、貸出所のみを作るという発想は、人と本を繋ぐ図書館の役割からはほど遠い。市民が本と接する機会を減らしたいのだろうかと思ってしまう。気軽に壁一面の書棚から本を選ぶ楽しみを奪ってほしくない。近隣の横須賀市は人口も多いが、図書館 4 館のほか、地域コミュニティーセンター 10 館に図書館を備えている。そこでは、小さいながらも十分に閲覧でき、鎌倉市民も選んで借りることが出来る、分館のような存在になっている。</p> <p>⑤子育て支援、学校教育支援の立場からも、今後益々図書館の果たす役割は大きくなると思われる。情報過多の時代において、子どもたちにとって自己の確立が大切な課題になる。本を読み、おはなしの世界を楽しむことで、自由に想像を膨らませ未知の世界を垣間見ることができる。そして生きていく知恵を習得し、実生活に役立てていく。また読書は個々が興味のある分野を探し、深める助けとなる。子どもたちがアイデンティティを確立するうえで欠かせない存在である。「本は生きる力」と言われるが、本との良い出会いを模索している時期に、良い出会いの場を提供するのが図書館の役割の一つと思う。リファレンス能力の高い司書のいる図書館が近くにあることは今を生きるこどもにとって心強い。その意味合いでも、図書館の数を減らすことは賛成できない。</p> <p>⑥類似機能を持つ施設は機能を集約するとあり、4-2 の表では図書室、図書館が四角で囲まれている。これは本に出会う機会を減らす方向に繋がる。人は同じ体験を繰り返すことによって学習しつつ自分のものにしていく。地道に丁寧に積み重ねることで、よりしっかりした核になる。図書館が 1 館のみだったら、まだ子ども会館に本がなかったら本は身近なものなくなる。横浜市のある地域センターではリースペースのカフェテリアのまわりの壁面全面に本が並べられ自由に気軽に読むことができる市民図書館になっている。本に出会う機会が多いと、自然と本を手に取り身近に感じるようになる。家に本が多い子どもが自然に本に親しむようになるのと同じである。ゲームで遊ぶことの多い時代、子どもたちに本と出会う機会を多く提供することは生きる力を育む意味でも大切である。言葉を大事にすることは言葉の持つ力を取得し、思いやる気持ちや高いコミュニケーション能力を養う。子どもの集うスペース、学校図書館と図書館と色々なところで本に出会う機会を作ることはさり気ない子育て応援となる。リファレンスを充実することで図書館が核となり、果たす役割は大きくなる。</p>	(前ページからの続き)

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
73 (続)	30 (続)		<p>⑦今回財政的に立ち行かなくなることを見越しての諸案とあるが、図書館削減が長い目で見て鎌倉市の発展に寄与するだろうか。図書館は個々に平等い開かれ、個人が個人のみの思いだけで自由に利用できる場所である。生涯学習の拠点、市民とともに創る図書館、鎌倉ならではの図書館と3本柱を掲げた第二次図書館サービスを確実に進めることが、世界に発信する文化都市、鎌倉市の真の意味の発展に結び付くのではないだろうか。サービス計画を実施する前から撤退を考えるのは時期尚早と思う。箱ものも必要なものは、地震対策を考えきちんと整備して残すべきである。</p> <p>思いつくままの意見ですが、まずは確実に第二次サービス計画を着実に遂行することからあるべき図書館の姿がみえてくることと思います。計画実施5年後に、時代に合わせた再編計画を考えることが一番ではないでしょうか。今回の短期計画は平成37年までの目標期間なのですから。建物の老朽化と図書館の存続は分けて考えるべきだと思います。見識ある再考を御願いたく、ここに意見を述べさせていただきました。</p>	(前ページからの続き)
74	31		<p>②素案は図書館サービス計画作成時に実施したアンケート調査が示した利用者・市民の意識と大きな齟齬があります。この調査では、各行政区に1館図書館がある現状を来館者（図書館を利用している人）の77.6%、非来館者（図書館を利用したことのない人、全回答者の5.4%）の52.7%が支持しており、大きな図書館に集約する方向への支持は全体の13.0%（来館者10.5%、非来館者25.2%）にすぎません。素案は地域館4館を、資料は所蔵せず貸出・返却・予約のための窓口の特化するというものですから、明らかに市民の意向に反するものと言わざるを得ません。</p> <p>③素案のP28にあるように、各館の貸出点数は中央457297、腰越238590、深沢264705、大船330937、玉縄228260となっています。中央図書館が飛びぬけて利用が多いわけではありません。地域館4館が全体の利用の70%を担っているという事実を考えると、中央図書館に一本化するという計画案は実態にそぐわないものです。</p> <p>④素案は「施設と機能を切り離して見直す」という考え方をとっています。機能が残されていれば施設をなくしても構わないという発想です。そこから地域館は資料がなくても貸出・返却の窓口さえあればいいということになったのでしょうか。もしそうならわざわざ「多世代交流スペース」などつくなくても、コンビニに委託すれば足ります。でも、そんなやり方で全体の70%のサービスを担えるはずがありません。図書館を街づくりの核としてとらえる自治体がふえてきているなかで、素案の図書館観は貧しすぎますよ。</p> <p>⑤計画の内容が極めて曖昧です。短期（H26～H37）では「中央図書館は大規模修繕または建替え」となっています。改修なのか建替えなのかいつ決まるのでしょうか。具体的な工程表がありません。中長期（H38～H65）は期間が長過ぎて本気度が疑われます。拠点校につくられる多機能施設の規模、各施設の配置、運営形態などについても説明がありません。コストの表がありますが、内容がはっきりしないのどうやって計算できたのでしょうか。</p> <p>資料編に算定方法についての説明がありますが、仮にこういう条件と計算式で試算してみましたというだけで、確定的で信頼できるものではありません。</p> <p>以上述べてきたように素案の内容に妥当性が感じられません。公共施設再編の必要性自体は否定しませんが、今回の素案に関してはただただ財政圧縮だけを目的に無理やり作った（あるいは特定の施設を標的にした？）ものと思えません。</p>	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
75	32		<p>経費削減だけが理念であり、町づくりの理念が感じられない公共施設再編計画であると思われるためこの計画に反対します。拠点校に統合する各施設の本来の機能について保証できるのか再度、検討願いたい。図書館を例に挙げれば、中央図書館の改修や立替が必要であることは理解できるが、現在の場所に市に一つになる図書館を建てることには大きな課題があると考えます。本は重いので、駐車場がある郊外にある本屋が増えていることは事実である。現在、鎌倉駅の周辺に市の施設が多い。市民への公平なサービスと駐車場の必要性を考えれば、中央図書館の場所は他になるはずである。また、100㎡(10m×10m)のスペースが図書館であるとは考えられない。さらに、貸出しと回収だけの機能が図書館であるはずがない。</p> <p>図書館の機能を書籍の貸出しと回収だけであると考えているのであれば、大きな間違いである。図書館の機能を理解していない委員が作成した再編計画であると考えざるを得ない。</p> <p>また、図書館に求められる機能があるように、学校には学校に求められる機能がある。複合化することにより、各施設の機能が低下することがあってはならない。児童の生活の様子や学習活動の様子を考えると、図書館に求められる環境とは言えない。児童の声を騒音と捉える方もいる社会では、図書館の機能のために空調整備を整える必要がある。結果として、経費の削減にはならないだろう。</p>	(前ページからの続き)
76	36	図書館について	<p>今後は、審議会に複数に市民代表を参加させ、男女バランスを整え、計画策定にあたっては市民参画の手法を取ること、さらに障がい者のために、録音版や点字版等の配慮も行うなど、意見交換の方法について十分な配慮と工夫がされることを望みます。</p> <p>素案では、「多くの市民が利用したいと感じるよう、機能の充実した拠点施設1つを鎌倉地域に整備し、他地域の施設機能は簡素化する」と説明されています。「多くの市民が利用したいと感じる」ことを望む根拠はどこにあるのでしょうか。「感じる」という抽象的な表現ではおよそ説得力はありません。また、中央図書館(2700㎡)の現在地での建て替えあるいは改装という拠点施設では、駐車場の確保(配送車両、緊急車両、障がい者対応、そのほか他地域からの利用者など、現在でも大きな問題を抱えています)の点一つとっても決して充実した機能が得られる施設にはならないと考えます。各種アンケート調査を読みましたが、現在の図書館の利用度は高く、施設の古さや狭小な点に問題を感じながらも、サービスに対しても満足度も高い結果が出ています。費用対効果や行財政評価も高いと認識しています。また、地域館を利用される方は利用者総数の70%にのぼります。細かいことは書きつくせませんが、図書館について述べるならば、以上の点から、この素案は、公共図書館の存在意義を十分に理解しないまま、イメージを先行させた、実態から乖離した案であると言わざるを得ません。また、素案では、拠点校に機能を残すとしている地域館はわずか100㎡のスペースであり、開架はせず、貸出業務のみ機能を残すとのこと。文部科学省が「地域を支える情報拠点」として公共図書館を位置付けているように、街の公共図書館は、地域に密着し身近にあってこそ役割が果たされる社会教育機関です。また、鎌倉地域に居住する市民と他地域に居住する市民の間に図書館環境の差があってはならないことだと思います。</p> <p>地域間格差をなくすため、昭和49年に中央図書館が新築開館した後は、図書巡回サービスを開始し、その後各地域に図書館を整備してきた先人の努力があって、現在の姿になった経緯を、今こそ振り返るべきではないでしょうか。アンケート結果を見ても読み取れるように、図書館は老若男女誰もがいつでも無料で利用できることが広く認知されている場所であり、他施設に比べて非常によく利用されています。</p>	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
76 (続)	36 (続)		<p>卒業後も生涯にわたって学び続けるために、また高齢者が散歩で立ち寄れる場所として、さらに障がい者が誘導サービスに頼らなくても利用できる身近な施設として、誰もが住んでいる町の歴史や文化を調べ学び続けるために…等々まちづくりを推進するために図書館が担う役割は今後も広がりはしても減ることはないと思います。</p> <p>また、「防災・減災」の観点からも、震災資料、行政文書等を保管し、災害時も非常電源で開館、インターネット情報にアクセスできる図書館は重要な施設です。実際、東北大震災の際に図書館から発信された、放射能測定や計画停電関連のリアルタイムの情報発信にはとても助かりましたし、計画停電中も多くの市民が図書館に訪れた実績があります。平時から図書館が身近な公共施設であるからこそ、非常時でも市民の活発な利用があるのだと思います。</p> <p>また、地域館にはそれぞれの地域の郷土資料が収集されるなど、各地域の「歴史的遺産と共生するまちづくり」のための機能が発揮されています。さらに、おはなし会の出張サービスや学習パック提供サービスなどを通じて、各地域における図書館と学校の連携が進んでいます。この連携が災害時に活用され、多くの被災者が出前図書館やおはなし会で情報収集や癒しの時間を持てたことは東北大震災でも証明されています。</p> <p>以上のように、図書館はまちづくりの要となる多様な機能を持っていますから、将来的に各地域に拠点となる多目的な複合施設を設置する際は、100㎡の貸出のみ図書館どころか、まちづくりの要としてふさわしい図書館にされるべきだと考えます。</p> <p>行財政改革は必要だが、「総合計画の推進に向けた考え方」に述べられた4項目の中で、「行財政運営」にあたる公共施設マネジメントだけを進めていこうとしても市民の共感や協力は得られない。</p>	(前ページからの続き)
77	44		<p>図書館をよく利用します。他市に比べ規模が小さいのでもっと充実させて下さい。鎌倉市は子育てし易い、と感じられる公共施設にするため、様々な立場の人の意見を聞いた上で計画を進めていただきたいです。</p>	
78	54		<p>現在の中央以外の図書館は閉鎖しないで下さい。文化都市と言われるよう、図書館を維持する努力を捨てないで下さい。職員以外の外部の人を切るのはOKです。内部から、市民から知恵を引き出せばよいと思います。(国交省出身の人にずっと給料を払ってゆく？財政難の考えあって、公共施設という市民皆の財産を切って捨てようとしているのに？市議会もかなり反対してました)積極的な解決法を研究調査して下さい。市長はリーダー(自ら汗をかく人)となり、策を産み出して下さい。</p>	
79	56		<p>図書館を中央館のみとし、地域館は貸出機能のみ、という案に反対です。①図書館は現状維持を望む声が多い。②図書館は、地域館も含め、日常的に利用率の非常に高い施設です。③本の受け渡しだけでは、図書館とは言えません。④実物に触れることなく、検索機やインターネットで得られる情報だけで本を選ぶことは困難です。目的が限定的な場合はともかく、調査・研究・学習の場合は不十分です。⑤活字離れが叫ばれて久しいですが、市民の身近な場所から本を奪うことは、それを助長することです。⑥現在の5カ所の図書館にも、遠くて通う事が困難な人がたくさんいます。高齢者や子ども、障害のある人ばかりでなく、比較的時間に余裕のある専業主婦だったとしても、徒歩圏内に図書館のない人は、不自由を強いられています。拠点を増やしこそすれ、減らすことは情報格差を広げます。財政難であることは分かっています。利用頻度の低い施設を見直すことは当然かもしれませんが、図書館は利用率が高いだけでなく、困難を解決するために有効に活用できる施設です。</p>	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
79 (続)	56 (続)		また、豊かな地域を作るためには考える市民が必要です。考える市民を作るために最適なのが図書館の充実です。住みたい土地の条件として、図書館が近くにある場所、と答える人はたくさんいます。市民が誇りを持って暮らせる街にするためにも、図書館の充実は欠かせません。鎌倉市は歴史と文化の街です。市が責任を持って、他市に頼られ、市民が誇りにできる図書館運営をされることを願っています。よろしく願いいたします。	(前ページからの続き)
80	10	55	(9) スポーツ施設 再編方針に賛成です。但し、深沢地域整備事業用地に整備する施設として、新焼却施設を追加していただきたい。 【理由】：ごみ焼却施設は、既存の周辺住民にとって迷惑施設であり、施設を単独・独立して設置しようとしても周辺住民の同意を得るのは至難です。一方、総合体育館は歓迎施設です。両施設を抱き合わせて新焼却施設設置問題を解決する方策を薦めます。加えて、焼却施設からの発生エネルギーの有効活用を図れます。	ごみ焼却施設については、環境部において適地の選定中であることから、その結果を踏まえ、いただいたご意見も参考にさせていただきます。
81	51	30	鎌倉芸術館は専門性が高く、規模の問題もあるため、鎌倉市単独では維持・管理コストが掛かり過ぎると思われる。近隣市町村との共同保有やメセナを検討している企業への譲渡、民間管理会社への経営の委託等ができれば負担減になるのではないかな。	鎌倉芸術館のような全市レベルの施設については、将来的な建替え等にあたっては、広域化等も視野に入れて検討を行っていきます。
82	51	31	市営住宅の入居希望率は供給戸数に対して約 13 倍となっていて非常にニーズは高い様に見えるが、単に一般家賃との比較で入居を希望する人もいるため、本当に扶助すべき人の条件をもう一度考えてみる必要有と考える。働きたくても働けない人（高齢者含む）、親の面倒を見ていて負担が多い人、子供を抱えた母子家庭等・・・	市営住宅の入居者資格は公営住宅法に基づき、鎌倉市営住宅条例で定めていることから、ご意見として承ります。
83	34	59	○市営住宅の間取りを（高齢者）単身世帯に合わせる計画には、反対。これからの時代は、女性のいつそうの社会進出を可能にするため、また在宅介護の蓋然性を高めるために、親世代との同居を促進する社会となる。「歴史や自然が多く、親世代や子どもに適した環境で、東京への通勤も可能」な住宅地であることを鎌倉市のアイデンティティとし、二世帯同居型の間取り（最も簡単には、隣接する 2K の部屋を連結して二世帯用の部屋としてゆけば、短期間でこの計画が実現できる。）とすべきである。そもそも市人口に占める高齢者単身世帯の比率を積極的に高めて行くことは、市税収入等の観点からも適切解ではないはずである。	市営住宅については、住宅セーフティネットとしての整備が主と考えており、市営住宅の提供による高齢者単身世帯の増加にはつながらないと考えています。
84	2		レイウエル鎌倉跡地は売却の方針とのことですが、大船行政センターを売却あるいは貸与し、行政センター機能をレイウエル跡地に移すほうが、一時的に建物の取り壊しおよび建設に費用がかかりますが、住民の利便性(駐車場を広く取れるし出入りもしやすい)も向上し、長期的にみて市の財政にもプラスだと思います。	レイ・ウエル鎌倉については、立地等の面から公共用地としての活用よりも売却する方が適当であると判断しています。

第5章 計画の推進

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
85	6	全体、 61、64	<p>再編計画の目的・課題・及びその方針と方法に関しては、丁寧に細かく分析していて良く纏まっていると思うが、横須賀市が公表した様にもう少し具体的な削減目標数字と期限をきちっと計画に明記した方が良い。拠点校に集約・複合化する案に賛成だが、良く地域と話しあう（町内会役員任せでなくて、一般住民を集めて）ことが必要。更に個々の具体案を纏めて計画を推進する為には、</p> <p>*ファシリテーターマネージメントで取り組むことが絶対条件で、効率的。具体的な削減戦略・戦術を作り上げる為には、資産・負債のB/Lをベースに考えないと意味がないことになる。単年度の収支面だけでとらえるのではなく、毎年継続して、資産・負債の動向を把握しながらマネージすることが必須では。</p> <p>この推進の為には、従来の縦割り行政のみでの対処では不可能で各部門間をまとめる権限を持つ横断的に資産を運営・管理できる新たな組織を作ることが絶対条件でしょう！</p>	ご意見のとおり、公共施設全体の効率的な整備・維持管理に向けた組織づくりが必要と考えており、計画の着実な推進に努めていきます。
86	23	64	<p>ロードマップ</p> <p>あまりに長期の計画で、現実味がありません。きっと、それぞれの短期計画の中に、市民との定期会議、建物のデザイン案、などがあるのですが、それらをもっとわかりやすく示してほしいです。各施設ごとの再編計画の短期計画をみると、今後10年間はやる事がすでに決まっているようですが、説明会での意見を聞いている限り、③で述べたような各関係者との理解が深まっているとは思えません。市民アンケートレベルで方針を決めるのではなく、関係者との意見交換を早急に行うべきです。また、長期計画だと、市政メンバーがかわる際に計画自体がなくなることが懸念されます。全庁的な問題意識の共有と体制整備とありますが、ぜひ、この計画の責任部署をはっきりさせ、今後の施設建築、維持、その後の計画までを見通してほしいです。行き当たりばったりに、建てたり、壊したりということがないようにしてほしいです。しっかり建設業者を見つけることも必要です。鎌倉市再編計画ということで、国の援助も必要なのかもしれませんが、学校を建て替えるときには、子どもたちの仮設への移動が必要となります。大船中学校の生徒さんのように、3年間プレハブではかわいそうです。</p>	
87	14		<p>④公共施設再編推進体制の構築</p> <p>鎌倉市「素案」の66頁において自ら課題として指摘しているが、公共施設は庁内すべての部局の政策展開とも関連しているといえる訳で、その再編整備推進のためには全庁各部局を横に串刺しした形での連携と調整が不可欠で、それ無くしては、市民に具体策を問えない筈である。市長をはじめ理事長の強いリーダーシップが望まれる</p>	
88	20	2	<p>施設の老朽化、財政の圧迫に対してはメンテナンス機能（ボランティア組織）を立上げ、年度計画の下推進してはどうでしょうか。古いものが再生され、コスト削減と思う。</p>	いただいたご意見は維持管理の仕組みづくりの参考にさせていただきます。

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
89	36	37-38	<p>再編方針の中に、「市民との協働」の用語が随所にみられます。例えば、「公設公営の発想から転換し、市民・民間事業者との協働により、サービス水準の維持・向上に努める」とか、「限られた財源の中で、よりよい施設としていくために施設運営を市民と協働で行う」などの記述です。</p> <p>しかし、本市で長らく NPO 活動を行い、3 年にわたる市と市民との協働事業を経験した者として痛感するのは、「市民との協働」が安き「労働力としての市民活用」になってはいけないということです。市民にそのような誤解を生まないために必要なことは、市による十分な情報公開と、徹底した議論の場づくりだと思います。しかし、この素案ができるまでの過程を振り返るとき、市民への情報公開や意見収集の場の設定は決して十分ではなかったと思います。まず、公共施設再編という市民に最も密接な課題であるにもかかわらず、その中心となるべき審議会に鎌倉市民が入っていません。障がい者も入っていませんし、福祉団体の代表者もいません。女性も市外の方一人だけです。市外の有識者とコンサルタントと限られた職員だけで、今後の鎌倉の公共施設の在り方を論じ、素案を作成することに強い違和感を持っています。この度のパブリックコメント募集も、当初はインターネットのみの公開で、大変驚きました。PC を持たない市民、使えない市民は意見を出そうにも出せない状況でした。紙媒体のものは役所まで出向けば閲覧できるとの添え書きに、真摯に意見を求めようとする誠意は感じられませんでした。また、限られた市民を対象にしたようなパブコメやワークショップ、市民 e モニターなどへのアンケート調査をする前に、各担当課が市民との信頼関係のもとに積み上げてきたそれぞれの審議会や協議会、現場の意見をもっと丁寧に吸い上げる仕組みを作るべきだと思います。</p>	個別施設の具体的な計画にあたっては、いただいたご意見も参考に検討を行います。
90	59		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2016 年の東京オリンピックを見据えて、鎌倉市公共施設の使命や役割を市民との対話・熟議を経て創りあげること。 2. 市民との対話から生まれたコンセプト(キャッチフレーズ)を国内外に向けて発表。なぜなら、鎌倉は一義的には鎌倉市民のものですが、既に、ユネスコの世界文化遺産への登録に手をあげた以上、世界の遺産でもあるからです。 3. 京都が行っている公共施設再編の中で、鎌倉が真似できそうなものをベンチマークとする。 	

その他（計画策定の進め方など）

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
91	3	74、82、85、86	<p>市民ワークショップに参加しましたが、それも含めどうまとめられているのか、冊子を読みにいきました。カラーに etc でお金がかかった試みなので一冊のみ市民がそこで読み、その場で意見を書くのは、どれだけの市民の考えをとりいれようとしているのか疑問を感じました。鎌倉地域 1 のコンセプトと再編の考え方大切にしてほしい。</p> <p>サービス別の再編アイデアではどの班の物も結論を急ぎすぎ、そのほかの班でいいアイデアがみられる。</p> <p>自由意見の「再編手法」16・17・21[再編シミュレーションの前提条件]6 の意見に賛成。</p> <p>[進め方について]全くすべて賛成。[参加&募集]上から 3・4。</p> <p>上から 2、〔その他〕全てに賛成。</p>	いただいたご意見は計画づくりの参考にさせていただきます。

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
92	38	七、資料に多出する市民アンケートについて	<p>1. この多くのアンケートについて質問対象者に疑問があります。ぜひ、どのようにして、アンケートの対象者を選び出しているのか、市民に公表すべきでしょう。有権者の数もこれだけの小さな市であるにも拘らず、さまざまなボランティア仲間、近所の知り合いなど重複しない300人以上の市民有権者に疑問を問いかけたところ、この5年間の間、誰一人、市役所からのアンケート回答依頼に出会ったことのないという現実です。</p> <p>2. 大学で社会調査を専門にしている方に出会って、最近お聞きした調査手法のあれこれを鑑みるに、設問によって想定される回答は、、、、「かくもあらむ」と。この資料編を読むほどに、疑問を持ちました。</p> <p>3. 結果分析も、こんな一律分析でいいだろうとも感じます。体験していなかったり、少数の利用しれない施設は、評価が低かったら、不必要と断じるのだろうか。それは、「総合計画 基本構想の三つの基本理念」とは別の判断であるし、設問も公正になっていません。だからこそ、3年といわず、素案をいま時点で見直すべき。</p> <p>4. 鎌倉における社会的弱者の視点があるだろうか考えます。総合計画・基本構想の基本理念に「1. 市民自治の確立 まちの主権者である市民の英知を集め、真の地方自治の確立をめざします。2. 人間性豊かな地域づくり すべての市民が、ともに生き、心のかよいあう、安心して暮らせる、人間性豊かな地域づくりを進めます。3. 環境共生都市の創造 人と自然が共生し災害に強い安全なまちづくりをめざす環境共生都市を創造します。」とあるのは、今回の公共施設再編計画素案のどこに生きているのでしょうか。見当たりません。市営住宅はなぜ必要とお考えですか。視覚・聴覚・肢体不自由・心身などの障がいを持つ方々へのアンケートはどこにあるのでしょうか。まず複合施設にされようとしている学校現場の意見を、つぶさに聞かれて作られた素案なののでしょうか。図書館利用に生きがいを求めている市民の思いのアンケートは、されたのでしょうか。等々、、、。「今から聞きに行きます」ではなく、それらの結果が入ったアンケートでないと素案とはいえません。「それらの意見を求めてパブコメをしている」とお答えならば、、、実に市民不在、提出するかどうかわからないパブコメをしたから、市民の声を聞いた、、、では余りにも「上から目線」の態度ではないのでしょうか。これから、聞きに行くでは、素案といえるのでしょうか。まさに、ここでも「上から目線」を感じます。市民から見れば、作成のご苦労は感謝ですが、市民目線の欠如の素案が作られ、段取りをされ、何万も市民がパブコメを提出しなかったとしたら、市政への市民の無関心を呼ぶことでしょう。それは作成の労をとられた担当者の真意ではないでしょう。こんな実態の中で、主権者たる市民はどうすればよいのでしょうか。暗澹たる気持ちになります。</p>	<p>平成 24 年度実施の市民アンケートは、本市に在住の 18 歳以上の方を無作為に抽出して行っており、828 名の方から回答が得られたため、参考にすることができる結果が得られたと考えています。</p> <p>利用者アンケートは各施設でアンケート票を配布しており、利用者の方を対象としています。</p>
93	58		<p>(5) アンケートをまとめるときに、見方が違うと賛成と反対が並立するのは当然である。特に大きな争点については、市も積極的に解説をして、より多くの市民の意見を引き出して欲しい。10月の5回の市長説明会は、市民の中の争点になっている課題の紹介が皆無であり、説明が従って平板な幹事がしました。アンケートの集計には十分に意見が掘り起こされるよう作業を願いたいということと、レイウエル鎌倉のような市民不在の処分を消して進めないで頂きたい。</p>	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
94	3		<p>これまでの経過でH24.10よりなぜ外部組織にしたのか、H26迄膨大な資料。それに費いされた労力と費用を考えるとこれ以上形だけ整えて中味がおそまつな計画が広く市民に知らされてなく進むかと思うといたたまれない気持ちです。</p> <p>外部組織にたよらず、鎌倉市を心から愛し、そのための労力はおしまない市民の力をもっと大切にするべきだと思います。</p>	<p>鎌倉市公共施設再編計画の策定支援等に関しては、一部作業をコンサルタント会社に委託していますが、計画作成・審議は、事務局（市）と公共施設再編計画策定委員会（以下「委員会」という。）が担っています。</p> <p>委員会は学識経験者5名で構成されており、広く公共施設再編に係る専門的な審議を行っていますが、今後個別施設の具体的な事業化の際には、地域の市民の方や施設の関係者などに参画いただき、検討を行うこととしています。</p>
95	21		<p>7月下旬に傍聴に行きましたが、まず、あの「委員」とされる、市長が「お招き」した5人に腹が立ちました。（そもそも、彼らと呼んだ市長が「おかしい」という事でもあります。鎌倉に住んでいない彼ら（＝「学識経験者」）が、やれ、「この小学校とこの中学校は人数も少なく『経費』のムダだから、廃校にして一つにしろ」とか、何をエラソーに、上から目線でモノ言っただよ？！！って思いました。市長は、「学識経験者」らしいその委員の彼らに、数百万報酬を払ってるらしいじゃないですか。それこそが、「経費のムダ！」であり、ウチらの税金で、勝手にヤツら（鎌倉市民でもない「外部」の人間）に給料払ってんじゃねえよ！って思いましたよ。金使うんなら、ヤツらに、じゃなくて、ウチらにでしょ？！！！！それ、「常識」でしょ。それとも、「常識」わかんなくて「市長」の座にいるって事ですかね。というか、そもそも、市民をバカにしていますよ。勝手に、市民じゃない人に、街の事を決めさすんじゃねえよ！って思いましたよ。そして、市役所の人、ヤツら（「委員」の5レンジャー）にペコペコしすぎ！あのお、ペコペコする相手間違っただけですけど…！！！！ペコペコするなら、私達市民に、ウチらにお伺い立ててくださいよ！まるで、あの5人組委員が、「株式会社カマクラ」の「役員」で、市役所で働いてる人たちは、役員にお伺い立ててペコペコしている「平社員」に見えました。老人施設とかも、使ってもない市長や、委員5人組が勝手に「無駄」とかナントカ言ってるようですが、市役所の人、言いなりになるのが仕事、ではなくて、現場行ったりとか、住民の声を吸い上げてください。</p>	
96	25		<p>今回の計画において、今後の鎌倉市のかかえる課題等を解決すべき、方針に対しては納得すべき点があり、私たちも考えていかなければいけない課題なのだと思います。しかし今回の計画では、策定委員会、検討委員会の中に学校現場経験者（教職員・管理職）がいないのは疑問を感じます。また保護者の意見も聞かず（パブリックコメントで聞いたことになるのか？）計画を進めていくことは学校に大きな混乱をもたらすと思います。課題解決に向けたより良い方針作成に向けた吟味の仕方をもう一度考えて頂きたい。</p>	
97	36	はじめに2	<p>「公共施設」の存在意義は社会的セーフティーネットとして機能することにあると考えます。誰もが周りの方のお世話になって成長し、誰もがいつまでも元気で働けるわけではありません。また、誰もが病気や事故や災害にいつ見舞われるかも予想できません。だからこそ、それぞれがすこしずつ負担しあって互いに助け合い、まちづくりへの責任を果たす仕組みが整えられてきたと考えます。このような相互扶助の仕組みでなりたっている公共の仕事を、市民は個人情報を含めて職員の方にゆだねているのだと思っています。それは地方自治法にのっとりお仕事をさせていただける、との信頼があるからです。だからこそ、公共の基本的な役割は、民間企業では採算の取れない事業を優先して行うことだと思います。本計画では、公共マネジメントの手法として随所に民間活用をあげられていますが、非営利市民団体との協働であればともかく、一般事業者であれば利益が見込めない事業に関与する道理がないと考えます。公共施設再編計画が民間企業の利益を出すための税金投入計画であってはいけないと思います。</p>	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
97 (続)	36 (続)		<p>本当に必要な事業であれば、まずは丁寧に市民に説明し、予算が足りないならば、ふるさと納税などをつかって寄付を募ったり、それぞれに応分の負担を求めるなど、徹底した情報公開を行ったうえで問題を共有し、市民とともに対応策を練るのが、本来税金を預かる市がとるべき姿勢ではないでしょうか。その過程がないまま、いきなり本計画が示されても、市民としては納得できないことが多いと考えます。もちろん、行財政改革は必要と思いますが、「総合計画の推進に向けた考え方」に述べられた4項目の中で、「行財政運営」にあたる公共施設マネジメントだけを進めていこうとしても市民の共感や協力は得られないのではないのでしょうか。</p> <p>27年度に社会基盤施設マネジメント計画を策定し、本計画と統合していくとのこと、いずれの計画も多額の税金が投入される計画であれば、先に述べたように、市民に丁寧にかつ十二分に情報を公開し、しっかりと議論がされることが必要です。特に、供給処理施設が本計画の対象外となっていますが、現在市議会でも討議されているごみ焼却施設は、複合施設の一つとして大変有効に活用できる対象だと考えます。また、公共施設の対象として、野村総研跡地等、市内に多数散在する寄贈施設や土地が入っていないのはなぜでしょうか？ これらも市民の公共財産として一括した管理が必要ではないのでしょうか？ ぜひ対象に入れ、一体的に計画を進めてください。</p>	(前ページからの続き)
98	38		<p>さまざまなことをすべてあわせて、鎌倉市の将来像と、公共施設の将来を考えましょう。市外の専門家だけの知恵ではなく、機械的なアンケートからの結論でなく、、、。そこからうかがい知れないものを掘り起こしましょう。民間では出来ないことを行うのが、公の責務、公共の値打ちです。公共、公の誇りを持って、市民の声に耳を傾け、偏見を持たず、真の意味で市民を主人公にして、再検討を始めませんか。</p>	
99	39		<p>「鎌倉市公共施設再編計画（素案）」全体に対する意見</p> <p>この「鎌倉市公共施設再編計画（素案）」は、約40年後の2054年（平成65年）までを目標とするもので、子育て、教育、文化、スポーツや高齢者福祉など、どれをとっても市民生活に欠かすことのできない公共施設を大きく変える今までにない計画です。市民にとって今後の暮らしに係わる重大な問題にもかかわらず、学校現場や図書館、ハンディを持った人、施設利用者などの声を十分に聞くこともせず、進めていることに納得できません。現在必要なことは、単なるコスト論から統廃合などを進めるのではなく、市民と一緒に30年、40年後の鎌倉を見通して共に各施策を考え、地道に進むことと考えます。</p> <p>第3次鎌倉市総合計画推進に向けた行財政運営の具体的な項目として、公共施設マネジメントの推進が位置付けられていますが、同時に基本構想の第1章、第4章には、市民自治の確立が明記され、基本構想の実現に向けては、市民参画、協働実現が明記されています。</p> <p>外部のコンサルタント会社に税金を使って拙速に進めるのではなく、市民の側に出向くなどの説明会を持ち、市民が直接意見が出せる機会を増やし、市民の声がしっかりと反映した、市民と共につくる計画にすべきです。</p> <p>また、今回この素案冊子入手のために企画課に行きましたところ、氏名の記名が必要でした。今まで資料請求をするために、このようなことはなかったことで驚きました。納得できるものではなく、するべきではないと思います。</p>	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
100	40	全体の感想	①公共施設なのに市民のほとんどが知らないうちにどんどん進められて、市民ではない人や会社に多額のお金を払って、意見をきき、それを実施してしまおうとしているのはおかしい。②現在ある形は市民みんなが使いやすい場所に使いやすい形で存在しているのだから、市民に意見をまいて、そのままの形で財政的に対応すべきだと思います③「財政難」を口実に市民が不便になり、市民の財産である施設を勝手に処分するのはいかなものか。再編計画すべてに反対します。もっと市民のためになる計画をおねがいします。	(前ページからの続き)
101	55		これから先の鎌倉をどうするのか見えないのはなぜなのか。小手先のことでものごとをすすめていこうとしているのが気になる。学校の統廃合の問題にはおどろいてしまった。子どもたちのことを考えるまえに、大人のおもわくが先行している感じがする。以前から何かといえばコンサルタント会社が出て来るのが気がかりである。決して安くはないお金を支払っている。鎌倉のことがよくわかっていない人達が机上で考えることが、はたして、良いと言えるのか疑問である。市民に知らせることにもっと力をそそぐ必要があると思う。もっといいいに、時間をかけるべきだと思う。	
102	58		<p>1. 10月3日の説明から感じた問題点および改善提案を先ず数項目ほど記載します。</p> <p>(1) 「明日の鎌倉」について、常々①「教育環境の向上」と②「暮らしやすさ、市民生活の充実」を求めて市政を見守っております。公共施設の老朽化は他人事とはとても思えません。</p> <p>(2) 膨大な施設が「築30年以上」とか20年以上とかで「床面積」やら施設に掛かった何百億円とかが集計されていますが、使いやすさとか老朽の進み具合などのイメージは、長期計画からしか検討課題にアプローチするのみで、今年1年ではどの施設が急いで検討しなくてはならないか？ないし「当面3年(あるいは5年)を洗い出すとどれとどれが検討を進めるべき」というわかりやすい実例で論議すべき事の方はもっと重要で、市民だれでも意見を表明出来る方法ではなからうか？</p> <p>どの施設が問題かは耐震強度その他を初めにすぐ発表すべきです。</p> <p>(3) 具体的な例として大船地域に有った集会その他の用途に使われていた「レイウエル鎌倉」の使用停止がありました。耐震強度に問題があったとはいえ、強度測定の予告がどの範囲の市民に通知されていたか甚だ不確かな上、結果の札名と措置について市民の意見をどこまで参考にされたか、先行事例だったと市は言うが、代替施設や再建案など市民との意見交換を経ずに土地の売却まで進めるとは、これからの「再編」の取り組みが思いやられる。現時点では「旧耐震基準である建物」だけで区分しているが、これも問題であることは十分承知されていることとは思います。</p>	公共施設の耐震化については、鎌倉市耐震促進計画に基づき、診断・改修を進めているところで、レイ・ウエル鎌倉については、想定以上に耐震性が低かったため、急な利用停止によりご不便をおかけしました。今後の診断に際しては、早めに周知を図るよう考えています。
103	23		⑥最後にお願いなのですが、これらの市政情報が私たち子育て世代に浸透していません。意識的にホームページなどをチェックすればいいのですが、私自身も広報かまくらをよく読んでいたのに、知らないことがいっぱいびっくりしました。ぜひ、学校などを通してチラシを配付するとか、広報かまくらや議会だよりによりわかりやすく載せるなどの工夫がほしいです。このパブリックコメントも、きっとひとにぎりの方しか出していないと思います。私のまわりでは、知っている方はいませんでした。きっとアンケートなども、本当に書きたい方がかけていないのでは？と気になります。どうぞよろしくお願いいたします。	公共施設再編の取組は、広報かまくら、ホームページ、再編計画ニュースなどを通じて、周知等に努めてきたところです。今後も情報提供方法については、改善に努めていきたいと考えています。

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
104	31		①公共施設再編計画（素案）については市は広く市民の意見を聞くという姿勢が弱いように思えます。たしかにパブリックコメントによる意見募集や説明会が実施されていますが、素案の内容を知ろうとしたとき、紙媒体では市役所の経営企画課と各支所だけにしか置かれていない（しかも配布ではなく閲覧のみ）、電子媒体では市のホームページから検索しないといけません。人によっては簡単ではありません。再編の対象になっている各施設の利用者の多くはこの素案の存在すら気づいていないのではないのでしょうか。	(前ページからの続き)
105	38	はじめに	9月17日、このパブコメの最初の日、パソコンを持たない知人のために素案をいただきに企画課に行き、若い公務員の対応＝市の態度＝この1冊を読みに来て書きなさいに唖然でした。「どんな条件の市民も平等に扱うよう」上司に意見を伝える事を依頼しました。説明会で、素案の白黒163頁を希望する市民に渡すことに変更された当然の事を知り安堵しました。もう一つ、これは出来ているのでしょうか。視覚・聴覚などの障がいを持つ市民に、点字などで素案を伝え、パブコメを求めているのでしょうか。日本国憲法第14条に、「すべて国民は、法の下に平等であって、…と規定されており、地方自治法第1条に「地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする。」とあるのは、ご承知と存じます。	
106	53		今回のパブリックコメント募集までに市民への周知ができていないのではないのでしょうか。まわりの方は全く知らない方が多いです。市民に即影響のある公共施設のあり方については、もっと住んでいる市民が自ら考え、計画づくりから市民参画で行うべきではないのでしょうか。鎌倉市は総合計画の中で市民自治の確立と提起しているのに、市民不在の計画づくりでは、めざす方向とは逆ではないのでしょうか。こんなにも具体的な計画づくりをし形にしてからコスト論で財政が不足して今後は今の様な形で公共施設を維持できないのでこうなりますと反論の余地のないやり方で押しつけられたら、市民としてこの街を自分たちで良くしていこうというボランティア精神は豊かになりますか？意見を言ってもどうせ反映されないとあきらめた魅力のない街になってしまうのではないのでしょうか。 何でもかんでも市役所にやってもらおう、不満は全て市役所に文句としてぶつけようという市民が増えるだけではないのでしょうか。もっと市民と市（行政）が共同で街づくりをしていけるように市民の知恵と労働力が発揮される方法を考えていただきたいです。 自治会の力でやれること、市民1人ひとりができることはたくさんあります。共に汗を流して街づくりを進めたい市民はたくさんいます。 この計画は市民でもない外部のコンサルタント会社や市外の有識者の意見が中心になって進められています。どれだけの費用がかかっているのでしょうか。税金のムダ使いにならないようにして下さい。真の市民自治が生きる鎌倉市をめざすのであれば、市民の意見が最大限に反映された公共施設づくりを進めて下さい。市民に愛され大切にされる公共施設が街じゅうに豊かに広がることを願っています。よろしくお祈いします。	

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
107	54		このパブコメがあることを市民のどれだけの人が知っているのでしょうか。「三年後に見直しをするのだから」と安易にスタートさせないで欲しい。スタートさせるにはもっと広範な市民に対してこの件で衆知させる必要があります。とても重要なことなのにワークショップ(?)でゲーム方式でお手軽な集約をしたのは、とにもなくにも施設をぐんと減らすのだ!!という強引なもって行き方が透けて見えます。市民はバカではないのです。手間がかかる事を嫌がらずに民主的なもって行き方に変えて下さい。	(前ページからの続き)
108	12		社会基盤施設 下水道の維持管理と個別浄化槽の有効性を真剣に考えた方がいいと思う 例えば浄化センターから最も離れている地区から浄化槽を推進して公共下水道を廃止していく 街路樹や水路の管理を地域の市民団体に委託するしくみ、地域で手を入れれば愛着が湧く、少ないお金でも収入があれば団体の活動も活発になる(町内会より学校のおやじの会とかに)	いただいたご意見は、社会基盤施設マネジメント計画策定の検討の参考にさせていただきます。
109	9		5. 中央公園等、大きな公園は有料化し年会費制で、パスを発行する。ホテルを見る会など、イベントのお知らせが利用者はうけられる。「地域自然資産区域法」について、県と協議し、これに該当する鎌倉市としての条例をつくる。	
110	13		中央政府の計画行政の主管庁であった経済企画庁が廃止されたのは2001年だったと記憶します。以来、中央政府には計画行政機能は存在しません。にもかかわらず、地方自治体では未だに計画行政が残っています。チョット、違和感を覚えますが、自治体は自治体の歩みを持っていいものと思いますよ。地方行政から中央政府を突き上げるようなブレークスルーが出ることを期待しています。	いただいたご意見は、市政の運営の参考にさせていただきます。
111	26	市民の手本としての働き方	市の職員の方は頼りになります。正職員であってほしい。イベント等の派遣者は仕方ないが、すべてが正職員だという安心感が欲しい。そしてその働き方は一般企業の手本となります。定時に仕事を終え、子育て休暇もとれる働き方こそ手本としましょう。遅くまで電燈の点いた市役所は気がかりです。給与の低下もあってはならぬ事と思います。	
112	26	52	福祉関連施設 80才代の私としては自立した生活が不可能になった場合、施設に入れるのに何年待ちということでは、その間どうすればいいのか苦慮する。希望すれば安楽死できる方策でも考えてほしい。	大きな視点からのご意見として承ります。
113	45		今回公共施設再編計画をざっとですが読ませていただきました。『市では、保有する公共施設の実態を明らかにするため、平成24年に公共施設白書を作成したところ、多くの施設が老朽化による大規模修繕や建替え時期を迎えており、今のままでは、市民1人当たりの負担を増やすか、施設数を65%減らさなければ、施設を維持することが困難であると分りました。こうした状況に加え、さらなる財政状況の悪化が懸念される中、今後予想される公共施設の維持管理コストの増大に対して、コスト削減に向けた取組が必要である』以上の問題点を解決する手段として老朽化した公共施設の廃止や取り壊し、規模の縮小、経費の削減を行い代わりに市内5カ所に各公共施設を置くための地域拠点校を選抜し、その校舎に複合するという大胆な計画に関心するとともに不安も同時に抱き、意見をかこうと思いました。腰越では、老人の憩いの場となっている小動荘がほとんどなんの前触れもなしに使用停止になったり、小学校の放課後、共働きのご家庭にとってはとても助かっていた子供の家が同じく急な印象を残し平成25年2月に休止、取り壊されました。その後子供の家に関しては立て替えが行われるという前提のもと腰越小学校内に移転しましたが、1年半経っても更地のままです。現在62名在籍、平均50名ほど来所しているが学校の教室は子供の家ほど広くなくせまくてトラブルが起きているとも聞いています。	腰越子ども会館・子どもの家やこゆるぎ荘については、耐震性に問題があり休止または移転したことから、大変ご不便をおかけしておりますが、説明等の対応については、関係課も含め改善を図るよう努めています。

整理 No	提出 No	原文		市の考え方
		ページ	意見	
113 (続)	45 (続)		<p>平成 26 年 7 月 5 日（土）14 時から 16 時腰越小学校ランチルームにて出席者 30 名を前に青少年課から工事の進捗説明がされる予定でしたが、定刻直前になって青少年課から急にこられなくなったとの連絡がありその後何の返事もいただけてないと聞いています。その数日前 7 月 1 日に腰越学習センターで「ふれあい地域懇談会」に出席した際はこの青少年課の説明会欠席の件は聞いてなかったのなぜ欠席されたのか聞く事はできませんでした。この「ふれあい地域懇談会」ではこどもみらい部青少年課の方から、子供の家の解体後隣地との境界の確定がされていないとの事で工事が遅れているとの話がありました。完成の予定は未定との返答でしたのではっきりとした期限を聞かせてほしいと要望したところ、今年度中には完成させますとの返答をいただいたがまだ工事に着工している気配はありません。ここからは憶測ですが、鎌倉市公共施設再編成計画を読んだ今、市内 5 カ所の地域拠点校が決まり次第、腰越子供の家や小動荘は、そちらに複合するのが目的で旧施設の建てた場所はいずれ売却して財源確保に回そうとしている。そして地域住民の混乱を避けるためにははっきりとはいわずずるずる時間をかけているのでは無いのかと勘ぐってしまいます。この再編計画自体は長期的な見解でいえば仕方の無いことかもしれないし将来的には大成功になるかもしれません。ですから個人的には決して反対ではないのですが、以上のような市民の気持ちをないがしろにしている行為（とくに、約束のすっぽかし）には、納得のいかないものがあります。何にしても、現在、公共施設を利用している市民には丁寧な説明や親切な接し方が必要なのではないかというのが私の意見です。以上よろしくお願いたします。</p>	(前ページからの続き)